

# あおぞら財団 年次報告書 Vol. 1

1996.9~1997.9

『あおぞら財団年次報告書 Vol.1/1996.9~1997.9』1998年1月

発行所：財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1三洋ビル4階

TEL:06-475-8885/FAX:06-478-5885/Email=webmaster@aozora.or.jp

ホームページ=http://www.aozora.or.jp/

印刷所：あゆみコーポレーション

乱丁・落丁はお取り替えます。  
本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

定 価 1,000円

1998年1月

 財団法人 公害地域再生センター（あおぞら財団）

## 発刊にあたって

---

はじめての年次報告書です。

あおぞら財団が発足した1996年9月を出発点に、1997年9月を1年の区切りとして、この年報をまとめました。発足にいたる経過や財団設立準備会での活動もあわせて紹介しています。

なにもかもが「はじめてづくし」ではありますが、おかげさまで1年の活動報告をすることができます。みなさま方に心より感謝申し上げます。

私たちの活動を多くの人たちに理解していただくとともに、自分たちの活動を自分たちで見直す機会にしたいと思っております。

今後ともご支援ご協力、よろしく願いいたします。

1998年1月

財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）

# りじちょうに聞きました この一年

森脇君雄、六十二才。(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)の理事長として、全国公害患者の会連合会幹事長として、多忙な日々を送る。そんな氏に、この一年を聞きました。

●財団の活動をこの一年振り返って、どうですか

この一年、寄付行為にもとづいて本当にいろんなことをやってきた。その活動は、地元の西淀川でしっかりと、土台をつくりつつある。震災展の開催や、西淀川での原風景の聞き取り調査、そして住民へのアンケート調査や道路提言づくり。地元での手応えを感じている。



●財団の理事長になって、いかがですか  
これまで、人の命をあずかりながら、公害をなくす厳しい闘いを長年やってきた。財団になって、「闘い」から「も」の育て、つくる「こと」が課題になった。急激な変化だが、今こそ企業や自治体と一緒にやってパートナーシップを組むべきだし、組める時だと思う。

●事務局での理事長の仕事は大変ではないですか？

まあ、世間一般で言われる「理事長」とは違って、みんなとワイワイガヤガヤ言いながら、ここ独自のものをつくっていけばいいと思う。毎日、事務所日誌をみんなで書いている。その日、その日の出来事や社会情勢など。どんなに、苦しい時でもこれを見たら勇気がわくようなものにしたいたいと思ってる。



●二年目、そして今後に向けては

この一年で、芽がでてきた。そして、どう育てるかも少しずつわかってきた。長い目で展望しながら、事業の整理をし、地元の実になる問題には着実に力を注いでいくつもり。また、隣の尼崎とも共同でまちづくりをすすめたいと思ってる。とにかく、被害者の尊い命にかけて、この財団を長くつづけ、守っていききたい。

## もくじ

りじちょうに聞きました「この1年」	1
1. あおぞら財団って？	3
1-1.こんなことするための、こんな組織です	4
1-2.こうして、できました	6
1-3.事業のあらまし	8
1-4.あおぞら財団にかかわっている人々	10
2. これまでの活動	17
2-1.こんなこと、あんなこと	18
2-2.機関誌「Libella」のあゆみ	22
2-3.できました「西淀川地域資料室」	24
2-4.財政報告	26
3. 報告書・出版物のダイジェスト	27
4. 資料「活動記録」	35
●活動記録年表	36
●新聞掲載、テレビ報道、外部による財団紹介、対外活動	42
5. 事務局から「ひとこと」	45

## 1. あおぞら財団って？

あおぞら財団がどんな組織で、何をやろうとしているのか。設立の経過も含めてまとめました。

# 1-1 こんなことをする組織です

## ●公害地域再生事業とは

財団の設立趣意書は、「公害地域の再生は、たんに自然環境面での再生・創造・保全にとどまらず、住民の健康の回復・増進、経済優先型の開発によって損なわれたコミュニティ機能の回復・育成、行政・企業・住民の信頼・協働関係（パートナーシップ）の再構築などによって実現される」と、地域づくりの進め方そのものも重視しています。

そこで、公害地域再生の事業として、財団の定款にあたる「寄付行為」では、以下のような柱を定めています。

1. 公害地域の再生のための地域づくりに係る調査研究と活動の実践
2. 公害経験や公害地域再生等地域づくり活動に関する情報発信・交流事業
3. 環境学習・環境保健活動等支援事業
4. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

ひとことで言うと、公害の経験に学び、それを教訓としながら、よりよい地域づくりを進めていく活動を行い、支援する組織ということになります。

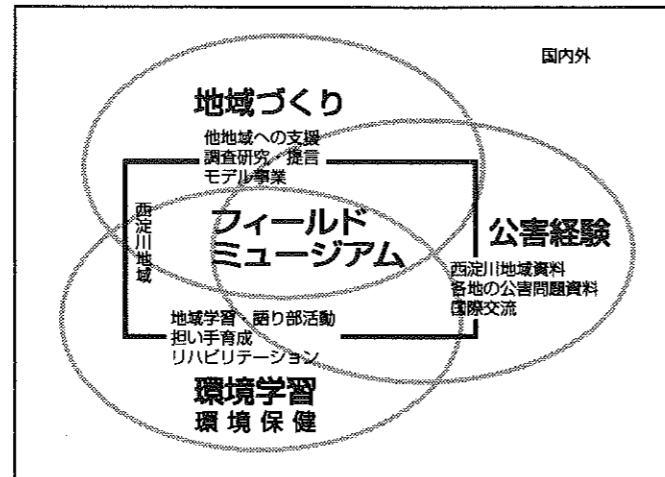
## ●当面の活動方針

財団では、立ち上げ時期である当面の2～3カ年は、1) 公害地域再生の世論形成、全国的なネットワークづくり、2) 西淀川地域をモデルにした地域再生マスタープランづくり、フィールドミュージアム活動の展開、3) 公害経験に関わる資料保存・整理、4) 財団財政の健全化・自立化、これら4点を基本方針にしています。

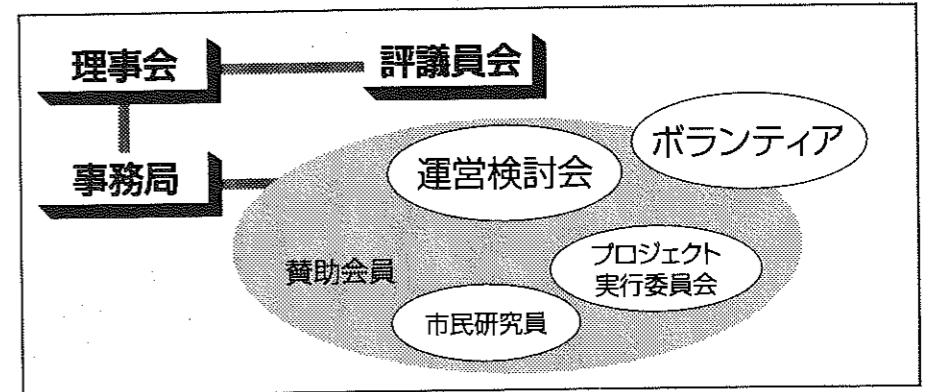
これにもとづき、1997年度は以下の4つの事業を重点課題に取り組んできました。

1. 財団の中長期計画・財政計画の検討、策定
2. 各地の公害地域との交流
3. 地域再生にむけた地域資源、原風景・原体験の掘り起こし
4. フィールドミュージアム活動の立ち上げ、高炉保存運動の展開

事業の構成



組織の構成



役員等の構成

- 理事長** 森脇君雄（全国公害患者の会連合会幹事長）  
**理事** アグネス・チャン（歌手）  
 飯島伸子（東京都立大学人文学部教授）  
 進士五十八（東京農業大学農学部教授）  
 芹沢芳郎（大阪から公害をなくす会会長）  
 早川光俊（弁護士・地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事）  
 三村浩史（関西福祉大学教授）  
 宮本憲一（立命館大学政策科学部教授）  
 森嶋昭夫（上智大学法学部教授）
- 監事** 井関和彦（弁護士）  
 熊野実夫（公認会計士）
- 顧問** 高橋理喜男（日本大学生物資源科学部教授、(社)大阪自然環境保全協会理事長）  
 都留重人（一橋大学名誉教授）
- 評議員** 足立義明（西淀川公害患者と家族の会事務局長）  
 植田和弘（京都大学経済学部教授）  
 逢坂隆子（花園大学社会福祉部教授）  
 太田映知（全国公害患者の会連合会事務局長、倉敷公害訴訟原告団事務局長）  
 加藤三郎（(株)環境文明研究所所長）  
 小池信太郎（公害・地球環境問題懇談会幹事長）  
 高田 昇（立命館大学政策科学部教授、大阪都市環境会議代表幹事）  
 壺井貞志（大阪環境保全株式会社専務取締役）  
 津留崎直美（弁護士）  
 西川栄一（神戸商船大学教授）  
 樋口市蔵（西淀川区福町在住）  
 村杉幸子（(財)日本自然保護協会事務局長）
- 運営検討委員**…運営検討会は、理事長の諮問機関です  
 岩壺祐里（(株)COM 計画研究所）  
 神吉紀世子（和歌山大学システム工学部助手）  
 柴田昌美（地方公務員）  
 高田 昇（立命館大学政策科学部教授、大阪都市環境会議代表幹事）  
 檜谷美恵子（大阪市立大学生活科学部助教授）  
 弘本由香里（生活文化研究家）  
 前田美子（大阪学童保育連絡協議会事務局長）

# 1-2 こうして、できました

## “西淀川再生プラン” づくり

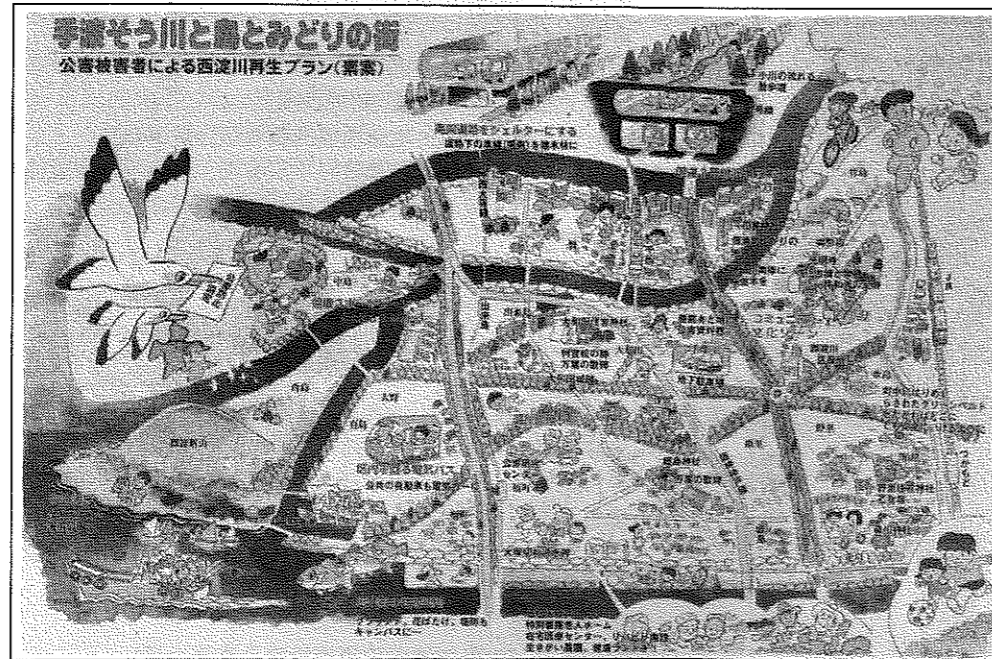
1989年、第1次提訴から11年目をむかえ「公害地域の再指定を要求し、裁判の早期結審、公正判決を求める100万署名運動」が展開されていました。翌年1月、第1次訴訟の結審を終え、西淀川公害患者と家族の会では、裁判勝利を多くの人のための共通の願いとするための「共感ひろば—手渡したいのは青い空」を秋にスタートさせました。府内12地域で行われた「共感ひろば」の活動は、それぞれの地域の環境問題を語り合う機会をつくりました。こうした取り組みを通じた支援の輪は、公害被害者自身が、「被害者救済のたたかひの成果を地域社会に還元したい」という願いへとふくらんでいきました。

公害被害者の皆さんの熱い思いを受けて、大阪都市環境会議や共感スタッフの協力のもと作成されたのが「西淀川再生プラン」です。3月29日の第1次訴訟地裁判決を目前にした3月21日、「西淀川再生プラン発表シンポジウム」が開催されました。その後、「西淀川再生プラン」は

### 西淀川大気汚染裁判とは？

高度経済成長期における、企業からのばい煙と道路からの排ガスによる都市型複合大気汚染の法的責任を初めて問うた、全国でも最大規模の公害訴訟。阪神工業地帯の主要企業10社と国・阪神高速道路公団を相手取り、健康被害に対する損害賠償と環境基準を越える汚染物質の排出差し止めを求めて、西淀川公害患者と家族の会から100人が第1次訴訟を提訴したのは1978(昭和53)年のこと。以降、1992(平成4)年の第4次訴訟まで、住民519人が原告となりました。

Part 6まで発表され、OECD(経済協力開発機構)のヒアリングや、国の環境基本法及び環境基本計画の策定にむけた公聴会などでも紹介されました。



西淀川公害患者と家族の会「西淀川再生プランPart1」1991年3月

### ●和解条項●

- 1、日本硝子株式会社を除く被告会社9社は、原告らに対し、大気汚染とその健康影響をめぐる長期にわたる紛争を終結し、将来にわたる友好関係を立する趣旨で、解決金として金39億9千万円を一括して…支払う。ただし、原告らは、右解決金のうち金15億円を、原告ら環境保健、生活環境の改善、西淀川地域の再生などの実現に使用するものとする。
- 2、略
- 3、原告らはその余の請求を放棄する。
- 4、被告会社9社は、今後とも公害防止対策に努力することを原告らに確認する。

(以下略)

## 企業との和解から

### (財)公害地域再生センター設立へ

1995年3月2日、17年にわたる裁判闘争の末、被告企業との間で和解が成立しました。

しかし、「手渡したいのは青い空」の言葉に象徴されるように、公害被害者のみなさんの最大の望みは、孫や子どもたちに自分たちと同じ経験をさせたくないということです。患者会発足から20年以上が経ち、多くの被害者が高齢化した現実を考えると、被害者救済運動とは違った形でこの思いを受け継いでいってくれる組織が必要となっていました。

長い闘争の間には、行政、企業、住民それぞれが対立したことがありました。「被告企業は、和解金を“手切れ金”と考えたりしてはならないのである。公害裁判で得た教訓を決してむだにすることなく、地域再生に役立ててほしい」とは『朝日新聞』(1995年3月4日)の社説の一文です。激しい闘争の末の和解は、すべての主体を“地域再生”という同じ目標に向かわせ、それらが協働することを可能にしていました。公害被害者のみなさんは、公害経験をいかし、



地域の活動に根拠を持ちながら地球規模の活動ができる、社会的に認められた組織として、環境庁所管の財団法人を設立することを選択したのです。

西淀川公害患者と家族の会は、同年10月22日の総会で、和解金の一部を、全国各地の公害で疲弊した地域の再生を支援する公益法人設立の基金として拠出することを決定。翌年2月7日には、「財団法人 公害地域再生センター設立準備会」事務所が大阪市西淀川区に開設されました。

# 1-3 事業のあらまし

あおぞら財団の活動はまだ緒に付いたばかりである。とはいえ、公害患者会として取り組んできた様々な提言活動等の蓄積の上に、将来の本格的な公害地域再生事業の構築にむけて着実な歩みを進めている。特徴的な取り組みを以下に紹介する。

## 1) 原風景・原体験のほりおこし活動

地域づくりの提案を地域に根ざしたものとす  
るために、原風景・原体験の聞き取りや地域資  
源のほりおこし活動を進めている。聞き取り活  
動では、この半年間で区内の約150名近い公害  
患者や一般住民の方々に協力を得ている。地域  
資源のほりおこし活動は、「まちづくりたんけん  
隊」という住民・学生等が参加する調査活動  
やセミヤタンボボ等の指標生物の生息調査など

様々な角度から進めている。こうして得られた  
データを地図カルテに整理して、地域の将来像  
をさぐるための基礎資料として蓄積している。

公害の原因には自然環境や社会資源、住民の  
生活やその思いなどに配慮しない地域開発のあ  
り方も含まれる。公害地域の再生ではその教訓  
を踏まえて、こうした地道な作業の積み重ねを  
重視している。

## 2) 安全な地域環境の再生にむけたプロジェクト

大都市部の住工混在地域では、産業の空洞化  
と相まった無計画な住宅建設等による小規模な  
公害問題の頻発、土壌汚染問題の顕在化、ハイ  
テク化に伴う各種の化学物質の使用と管理に係  
わる問題、産業用貨物自動車が集積する下での  
道路沿道公害の深刻化、アメニティに乏しい都  
市環境など、様々な問題が山積している。また、  
零細事業所・工場が多いことも対策を困難にし  
ている。こうした中で、複合化・複雑化した環  
境汚染によって住民への健康被害が発生しない  
ように、地域の構造を再編し、環境管理を進め

ていくことは公害被害の教訓を活かそうとする  
立場からはさけて通れない課題である。

いま私たちは、土地利用の流動性を前向きに  
とらえて、パートナーシップによる計画的な土  
地利用の誘導により、地域内での適正な住工の  
すみわけ、汚染土地の緑地としての留保・管理、  
住民参加による環境汚染の評価及びモニタリン  
グの進め方について研究し、そのパイロット事  
業として住民参加の緑地づくりを始めようとし  
ている。

## 3) 公害患者のリハビリテーション

公害病認定患者の高齢化が近年著しい。いつ  
激しい発作で命を奪われるかわからない不安を  
抱えている公害病患者の不安を和らげて、少し  
でも生きる喜びを享受することができるような  
取り組みが必要となっている。公害患者会が独  
自に実施している一泊転地療養事業は多くの患  
者に好評で、財団もその運営に協力している。

また、いま検討を進めているのが、園芸療法

や箱庭療法といった知見を活用して、花や木を  
育て、緑地をつくるといった地域づくりの活動  
が、公害病患者や喘息の子どもたちのリハビリ  
テーションにつながるような仕組みである。現  
在、大阪府立羽曳野病院や園芸療法研修会の先  
生方の協力を得て、その実証実験となるプロジ  
ェクトを進めている。

## 4) 公害経験を活かしたフィールドミュージアム活動

わが国の公害の被害とその対策に係る経験  
は、次世代へと伝承していくとともに、途上国  
等へと情報発信されていく必要がある。その際、  
たんに制度や技術などの側面にとどまらず、そ  
れらを必要とした社会的な世論がどのように形  
成されてきたかなど、立体的に語られるべきで  
ある。そうした立場から、私たちは公害被害者  
の立場から、その運動に係わる資料を収集・整  
理し、記録化するとともに、途上国の被害者や  
NGOとワークショップを開催するなどの活動を

進めている。

また、多くの市民が公害の被害と対策の現場  
で、実際にその当事者らとじかに交流し、どの  
ように変化しつつあるかを見るという体験が重  
要だと考えて、公害地域におけるフィールドミ  
ュージアム活動を提唱し、実践している。この  
活動は、地域の産業発展や生活の変化の光と陰  
の部分リアルにとらえ、被害者などと交流し  
ながら、公害地域の現状と再生に向けた取り組  
みの生の姿を知る場として考えている。

### ●各種事業の内容

分野	テーマ	個別テーマ
地域づくり	住工混在地域の環境づくり	安全な地域環境づくり(市街地土壌汚染問題等) 住工混在地域での緑地形成、良好な大気生活環境づくり
	提言活動	パートナーシップによる公害地域再生事業の進め方 これからの道路環境形成のあり方 地域環境保健の増進に寄与する医療機関の敷地利用のあり方
	マスタープランづくり	公害患者等の原風景・原体験のほりおこし 公害地域における地域資源のほりおこし(たんけん隊) 水辺地域の再生マスタープランモデルの検討 既成市街地の再生マスタープランモデルの検討
	他地域支援	倉敷・水島地域の再生活動支援 尼崎南部及び阪神被災地の再生活動支援
公害経験	公害博物館構想の検討事業	西淀川地域における反公害運動資料の記録・保存 西淀川地域資料室の運営 *震災展、生き物展、原風景展 フィールドミュージアム活動
	公害経験の情報発信・交流	途上国の公害被害者等の招聘による経験交流事業 インターネットを活用した情報発信・交流 西淀川公害訴訟の記録集作成事業
環境学習 環境保健	環境学習事業	子どもと環境研究会運営 子どもエコクラブ運営 西淀川自然観察活動
	講座活動	地球環境市民大学校西日本校運営事業 地域講座(再生講座、西淀川講座等)
	環境保健事業	園芸療法等を通じた公害病患者のリハビリテーションの可能性調査 公害患者転地療養事業への協力
法人業務	総務・財務	各種機関会議の運営、法人手続き、事務所運営 会計、財産管理、予算・決算
	広報・交流	Libella、各種宣伝、企画提言 市民研究員助成、他の研究団体との交流

# 1-4 あおぞら財団に関わっている人びと



東京での設立記念イベント

## 環境を守る大切さと 難しさを知りました

大阪工業大学土木工学科 4年

川上 正人  
黒木 亮太

以前から環境問題に興味があった私は、大学4年生となって、卒業研究を行う際、環境アセスメントをその題材にしたいと考えていました。研究室の先生の紹介で、あおぞら財団を知り、縁あって私たちの研究に協力してもらえることになりました。その過程で、大気調査、水質調査、土壌調査をともにやり、西淀川の現状を、ほんのわずかですが肌で感じることができました。同時に、今まで知らなかった西淀川公害の歴史を知り、改めて環境を守ることの大切さと難しさを知ることができました。

現在私たちは、いまだに数多く累積する西淀川の問題の中で、土壌汚染について調査しています。住工混在地域である西淀川では、長年にわたる大気汚染や水質汚濁、産業廃棄物などを通じ、さまざまな汚染が土壌に蓄積されていると考えられています。その中から私たちは重金属に限定し、土壌汚染の現状を把握することに務めています。口で言うのは簡単なのですが、いざ調査を開始すると、自分たちの認識の甘さ、考えの浅さから、どのように研究を進めればよいか全くわからず、ほとんど手探りの状態でした。そんな私たちを財団の傘木さん、鎗山さんらの親切なご指導で何とか今日までくることができました。

あおぞら財団  
と  
私

### ●運営検討会

理事長の諮問機関。センターの事業・運営方針や実施計画について、理事長と事務局に助言します。プロジェクトの実施やセンターの運営について、具体的に検討する場となります。プロジェクト実行委員会の代表者も委員となり、それぞれの進捗度やあおぞら財団の活動全体のバランスを考える場となります。

運営検討会は、いわば財団の「知恵袋」。1996年2月にスタートした設立準備会とともに活動を開始し、公害地域の再生という、未経験の新しい大事業を担う組織と活動のあり方を、事務局と一緒に論議し、提案してきました。

この間、「あおぞら財団」という愛称、ロゴマーク、機関誌などに使用しているトンボのキャラクター、設立許可を前にした地域再生シンポジウムや設立記念イベントの企画、まちづくりたんけん隊など、ユニーク・清新・気鋭のメンバーたちがアイデアを出し、練り上げた成果が光ります。

「手弁当」で惜しみない協力を続ける委員達のプロフィールを紹介します。(以下は、上田の独断によるものです。堪忍してください)

岩壺祐里さん／どこか異星人的なテンポを漂わせた美人。会議の日取りを間違えても「あら違ったかしら」と楚々として立ち去られたとか…。株式会社COM計画研究所勤務。

神吉紀世子さん／この人の馬力の源泉は、きっと睡眠に違いない。明るい笑顔が印象的な和歌山大学システム工学部勤務の工学博士です。

柴田昌美さん／愛称シバタン。正真正銘の宇宙人？別名、公園博士、最近では中国の公園に凝っているようです。本職は地方公務員。

檜谷恵美子さん／じっくり考えて、実に的確な言葉を繰り出す、優しい面立ちの才媛です。先ごろ助教授になられました。大阪市立大学生

活科学部勤務。

弘本由香里さん／「ええ」「ええ」とこの人になづかされると、何でも話してしまう。相手に対する優しさを決して失わない会話名人は、生活文化研究家としても活躍中です。

前田美子さん／大阪の学童保育運動の中心メンバー。「子どもが主人公」を実践しているひたむきさは貴重です。大阪学童保育連絡協議会勤務。

これらのメンバーの中心に高田昇(立命館大学教授)さんがいます。高田さんは、「財団は、公害患者のいのちと健康の代償として築き上げてきた貴重な成果を、引き継ぎ発展させるために、市民が主体となる研究・実践活動をベースにした、新しいNPO(非営利組織)でなければならないと考えている。と同時に市民と行政・企業専門家等のパートナーシップによって、企画から運営にいたるまで幅広い人たち、組織の参加によって充実させていく、新しい公益法人のあり方を求めたいと思う」(「環境と公害」1996年7月)と財団に関わる意欲を語っています。

1997年8月、中長期計画策定委員会と財政計画策定委員会を発足させました。

### ●中長期計画策定委員会

委員会は2回の会合を重ねて、(1)事業体としての質と力を高める組織の充実、整備、(2)地域再生マスタープランの策定、(3)地域再生モデルプロジェクトの実施、(4)事業評価と財政のバランス、(5)事業の成果の自己評価、を柱とする中間報告を第4回通常理事会に報告しました。理事会後に開いた第3回委員会では、委員はもとより、事務局、財政委員からも「中間報告」への意見提出を要請するとともに、事務局での十分な論議を要請しました。

中長期計画策定委員は次の通り。(敬称略・順

## 「一度のぞいてみようかな」 だったが…

京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻

小原 宏勝

私が初めてあおぞら財団の活動に参加したのは、第1回まちづくりたんけん隊の実行委員会であった。いぜんから「まちづくり」に興味を持っていた私は、住民参加で街づくりイベントを行うということを知り、「一度のぞいてみようかな」というくらいの気持ちで最初は参加した。以来現在までさまざまな活動に参加し、ついには修士論文を西淀川をフィールドにして作成することになった。

あおぞら財団の何が私をここまで引き付けたのだろうか。今思うと「さまざまな人との出会い」の一言に尽きると感じている。たんけん隊の実行委員会では「街の専門家」とも言えるような人々と出会い、研究会では、多分野の専門家のさまざまな視点からのまちづくりに対する見解をお聞きすることができた。まちづくりにはさまざまな分野がかかわりあうこと、実際に住民参加で街づくりを行うことの難しさを身をもって経験するよい機会であった。

あおぞら財団  
と  
私

## わくわくしながら また足を運ぶ

京都府立大学大学院生活科学研究科住環境科学専攻

柴田 園子

「こんにちは」「あつ！園子ちゃんいらっしゃい」。財団のK氏にいつも言われるこの言葉が私はうれしいのです。大学以外の学びの場に感謝しています。それは人と話すことがどんなにためになるかがここでは、体験できるからなのです。また、今まで知らなかった分野の知らない知識をたくさん教えてくれるありがたい場所なのです。はじめて、財団にお邪魔したのは、昨年4月でした。きっかけは、卒論を書くためでした。はじめは、冗談もまともに受けてしまうような、かちかちの心境でした。それから、もう1年半になります。今は、気軽に足を運べるようになりました。財団は「人と人との出会いの場」ではないでしょうか。私は、この1年半の間にたくさんの人と知りあいになることができました。世代の違う人との出会いがたくさんあります。とくに、財団が主催していた「たんけん隊」はいい機会でした。「顔見知りになれる」と、わくわくしながら私は西淀川にまた足を運ぶのです。





## モーレッツに働く 事務局のみなさん

立命館大学政策科学部  
高野 基晴

あおぞら財団  
と  
私

昨年秋から、まちづくり事業を手掛ける民間非営利組織のケーススタディーとして、あおぞら財団の様々な活動に参加させていただいています。

最近私は民間非営利のシンクタンクに興味を持っているのですが、アメリカでは多数のシンクタンクが公共セクターの政策形成に大きく貢献していると言います。質の高い研究調査と実践、多様で積極的な広報活動、政府公務員や大学研究者を研究員として受け入れて活性化し政策の実効性向上をはかっている点など、あおぞら財団が参考にできる点も多いのではないのでしょうか。政策過程において影響力が行使できるかどうかで、財団の真価が問われるのですから清く正しい(?) ロビー活動で積極的に活動をアピールし、政策担当者の信頼と協力を得ることが不可欠です。

一方忘れてはならないのは、地域住民の間に確実に浸透していくことでしょう。現状は設立の理念に忠実に活動しており成果を上げつつありますが、私はそれだけでは早晚息切れして住民から乖離してしまうのではないかと、ほんやりとした危機感を持っています。たとえばお祭りイベントの共催やミニコミ誌の発行など、今まで以上にソフトな方法で街づくりの機運を盛り上げ、住民を巻き込んだ活動に発展させるための柔軟な発想が必要だと思っています。

ともあれあおぞら財団の活動は、既存の街づくりの見直しを迫る壮大な試みに違いありません。闘争型、告発型を超える「共働型」の新しいタイプの市民組織として、事業能力と社会的認知を高めていくことを切に願っています。十分とは言えない職場環境の中でモーレッツに働く事務局のみなさんには頭の下がる思いです。私も微力ながらお手伝いをしていきたいと考えています。

### ●園芸療法パイロット事業

大阪府立羽曳野病院の協力で、同病院の入院患者を対象に進められている園芸療法パイロット事業は、1997年5月にスタートしました。同病院に入院中の子どもたちを対象にしたプログラムが進行中です。事業を現場で担当する平山ユミ子も大忙し。これを支えるのが豪華で強力なボランティアスタッフです。

「スタッフにはすごい助太刀がそろいました。月曜日には園芸相談員をされているコンタニさん、水曜日にはフラワーコーディネーターのトシユキさん、どちらもそれぞれの分野で活躍されている方々で、ボランティアを引き受けてくださったのです」(平山ユミ子の「えだまめ通信」Libella19号)

コンタニさんは「咲くやこの花館」の職員で、休館日の月曜に「羽曳野通い」。トシユキさんは、園芸用品を仕入れている富田林園芸の「御曹司」、商売抜きのお付き合いを重ねていただいています。病院内にも協力の輪が広がっています。ダルマ大使や管理のおじさん、入院中のパジャマボランティアなどなど。事業への理解が、人の輪となって広がっています。

### ●Libella発送ボランティア

西淀川公害患者と家族の会の蒲原ヨシコさん、岡崎久女さん、永野千代子さんの3人が主に支えています。「夫・正幸さんの分も」と活動する蒲原さん、「自分が輝いていたから」と治療の合間を縫って参加する久女さん、お千代さんは、早朝からの勤務を終えてかけつけます。

発送中は、にぎやかにおしゃべりしながらきばきとかたずけて行きます。発送作業は、職員と財団生みの親である患者さんとの交歓の場ともなっています。

不同)三村浩史、高田昇、柴田昌美、檜谷美恵子、太田映知、足立義明、村松昭夫

### ●財政計画策定委員会

財団財政の自立のための計画づくりを求められた委員会は2回の会合を経て、(1)財政の実情の正確でわかりやすい把握と報告、(2)財団の将来展望を具体的に示す財政計画の策定、(3)98年度予算について、の3点をまとめて、理事会に報告しました。さしあたり、98年度予算での、自主財源の確保、事業費の節減に務め、収支の赤字を2000万円台に減らすよう求めています。

財政計画策定委員は次の通り。(敬称略・順不同)芹沢芳郎、前田美子、弘本由香里、岩壺祐里、福本富男、松本勝、徳本文三郎、武田明、津留崎直美

### ●まちづくりたんけん隊

「鳥の天才」西山圭三さん、西淀まちと自然の会の北元敏夫さん、金子みすずが好きな釣り人・香西博之さん、京都大学の院生で西淀川をフィールドに修士論文に取り組む小原宏勝さん…。

とにかくユニークで多才なメンバーが毎回きちんと集まって、計画を立て、入念な下見をして「まち歩き」を企画。6回の「たんけん」を13回の実行委員会が支えました。1年余りかけて西淀川をほぼ踏査しました。

たんけん隊は、楽しみながら地域を知り、まちの資源を探し、掘り起こそうというもので、将来のまちづくりにもつなげたい、と蓄積をしてきました。財団活動の様々な分野に、こうした活動の成果が反映されています。現在、報告集の取りまとめにかかっています。



まちづくりたんけん隊

## 新しい発見がいっぱい

あおぞら財団  
と  
私

奈良女子大学生生活環境学部

西 英子

私があおぞら財団の方と初めてお会いして1年が経ちます。96年11月下旬にドイツのIBAエムシャールパークの視察調査に参加させていただいたのがきっかけです。視察調査は、私にとって初めて見聞きすることばかりで、ただただついていくのに精一杯でしたが、地域再生、まちづくり、パートナーシップ等の問題に真剣に取り組む研究員の方にとっても刺激されました。

この1年間、様々なかたちで財団や西淀川の地域に関ることができました。ドイツの視察でもそうでしたが、実際に歩いてまちを肌で感じることは大切だと感じています。そのひとつに「まちづくりたんけん隊」の活動があります。西淀川区は住工混在地域ですが、家の前に並ぶたくさんの植木、街路樹、旧家、地蔵、路地、公園、空き地等の新しい発見がありました。また、地域の方にお話をうかがったり、子どもたちと出会ったり、たんけん！して地域を知ることができました。また私にとっても一つ貴重だったことは、この1年間で財団の研究員の方、財団に関する方、他の大学の学生等、いろんな方に出会えたことです。様々な専門分野から地域再生に関っておられる方に接し、その情熱にとっても勇気づけられています。

各種事業の研究活動・委員会参加メンバー

五十音順

氏名	所属	研究・委員会
浅野 房世	株式会社エス・イー・エヌ	厚生科学
足立 義明	西淀川公害患者と家族の会	道路提言、博物館、中長期
阿部 功	大阪薬科大学	環境安全
池田 恒子	姫島保育所	子ども
石川 宗孝	大阪工業大学	環境安全
伊藤 真美子	西淀川学童保育所	子ども
岩瀬 綽子	西淀川保健所	リハビリ
岩壺 祐里	株式会社 COM 計画研究所	財政計画
植田 和弘	京都大学経済学部	環境安全、道路提言
浦邊 真郎	株式会社アーシン	環境安全
江川 誠一	株式会社関西総合研究所	博物館、NIRA、環境安全
遠地 昭典	子育てと教育を考える西淀川ネットワーク	子ども
圓藤 吟史	大阪市立大学医学部	厚生科学、環境安全
遠藤 宏一	大阪市立大学商学部	道路提言
逢坂 隆子	花園大学社会福祉学部	リハビリ
太田 映知	倉敷公害患者と家族の会	中長期
大村 璋子	遊びの環境デザイナー	住工植樹
奥川 良介	大阪芸術大学 (学生)	フィールド
小原 宏勝	京都大学工学部 (学生)	トヨタ、たんけん
織原 泰	社団法人大阪自治体問題研究所	NIRA
恩地 実	西淀まちと自然の会	フィールド
梶浦 恒男	大阪市立大学生生活科学部	道路提言
加藤 恵正	神戸商科大学	大気生活
金本 玉美	株式会社関西総合研究所	厚生科学
川上 正人	大阪工業大学 (学生)	環境安全
神吉 紀世子	和歌山大学システム工学部	トヨタ、たんけん
菅野 實	東北大学工学部	厚生科学
北元 敏夫	西淀まちと自然の会	トヨタ、たんけん、住工植樹、フィールド
黒木 亮太	大阪工業大学 (学生)	環境安全
香西 博之	株式会社グリコ	たんけん
兒山 真也	京都大学経済学部 (学生)	道路提言
小山 仁示	関西大学文学部	博物館
紺谷 保美	咲くやこの花館	リハビリ
坂田 寿美子	立命館大学政策科学部 (学生)	リハビリ
坂本 美頼子	よどっこ保育園	子ども
佐藤 駒江	西淀川学童保育所	子ども
澤田 みどり	園芸療法研修会	リハビリ
塩貝 健	大阪大学工学部 (学生)	道路提言、たんけん
塩崎 賢明	神戸大学工学部	道路提言
重松 敏則	九州芸術工科大学	環境安全
柴田 園子	京都府立大学生生活科学部 (学生)	トヨタ、たんけん
柴田 昌美	大阪都市環境会議	博物館、たんけん、住工植樹、中長期
芝村 篤樹	桃山学院大学経済学部	フィールド
島 正之	千葉大学医学部	厚生科学
庄谷 邦幸	桃山学院大学経済学部	フィールド
須田 滋	須田滋法律事務所	道路提言
芹沢 芳郎	大阪から公害をなくす会	財政計画
高田 昇	立命館大学政策科学部	中長期
高野 基晴	立命館大学政策科学部 (学生)	トヨタ
高宮 信一	まんが企画	フィールド
武田 明	武田明会計事務所	財政計画
武田 博志	フェニックスフォト	フィールド
壺井 貞志	大阪環境保全株式会社	博物館
津留崎 直美	天王寺法律事務所	道路提言、博物館、財政計画
徳本 文三郎		財政計画

氏名	所属	研究・委員会
富阪 恵子	兵庫県史編集室	フィールド
富阪 賢	貝塚市郷土資料室	フィールド
豊島 協一郎	大阪府立羽曳野病院小児科	リハビリ
中谷 訓之	富田林園芸	リハビリ
中山 徹	奈良女子大学生生活環境学部	大気生活、NIRA
洙田 靖夫	近畿大学医学部	厚生科学
西 英子	奈良女子大学生生活環境学部 (学生)	住工植樹、たんけん
西畑 亮一	株式会社菱和メディカル	たんけん
西村 弘	大阪市立大学商学部	道路提言
西山 圭三	西淀まちと自然の会	たんけん
新田 保次	大阪大学工学部	道路提言
早川 光俊	きづがわ共同法律事務所	博物館
林 つや子	にしよどおやこ劇場	子ども
檜谷 美恵子	大阪市立大学生生活科学部	道路提言、中長期
弘本 由香里	生活文化研究家	大気生活、博物館、財政計画
福本 富男	福本富男法律事務所	財政計画
福山 丈二	大阪市立環境科学研究所	大気生活
北條 蓮英	株式会社アーバンプランニング	住工植樹
前田 美子	大阪学童保育連絡協議会	子ども、財政計画
松尾 英輔	九州大学農学部	リハビリ
松田 秀司	障害児(者)を守る会西淀川支部たんぽぽ会	たんけん
松元 隆平	株式会社関西総合研究所	厚生科学
松本 勝		子ども、財政計画
松本 隆之	大阪大学工学部 (学生)	道路提言
丸橋 寿夫	西淀まちと自然の会	フィールド
三村 浩史	関西福祉大学	中長期
三宅 宏司	武庫川女子大学生生活環境学部	博物館
宗田 好史	京都府立大学人間環境学部	リハビリ、トヨタ
村松 昭夫	大阪法律事務所	道路提言、博物館、中長期
室崎 益輝	神戸大学工学部	厚生科学
盛岡 通	大阪大学工学部	道路提言
森島 彰	環境事業団業務部企業立地課	大気生活
八木 剛	兵庫県立人と自然の博物館	トヨタ、フィールド
八幡 奈都子	立命館大学政策科学部 (学生)	道路提言
山川 元庸	あさひ法律事務所	道路提言
山崎 一夫	大阪市立環境科学研究所	トヨタ、フィールド
横部 弥生		たんけん
若生 謙二	大阪芸術大学	トヨタ、住工植樹

略称	
NIRA	総合研究開発機構「日本型パートナーシップ構築のために」研究会
たんけん	まちづくりたんけん隊実行委員会
トヨタ	トヨタ財団研究助成「市民参加型の自然環境復元」調査研究会
フィールド	「西淀川フィールドミュージアム」活動
リハビリ	環境庁委託「園芸療法を活用した公害患者等のリハビリテーション」調査研究会
環境安全	環境庁委託「安全な地域環境の再生」調査研究会
厚生科学	厚生科学研究「医療施設敷地利用の推進方策」調査研究会
子ども	子どもと環境研究会
住工植樹	公害健康被害補償予防協会委託「パートナーシップによる植樹事業」調査研究会
大気生活	環境庁「良好な大気生活環境」調査研究会
道路提言	西淀川道路提言研究会
博物館	公害博物館基本構想委員会
中長期	中長期事業計画策定委員会
財政計画	財政計画策定委員会

## 2. これまでの活動

おもな活動記録をまとめました。

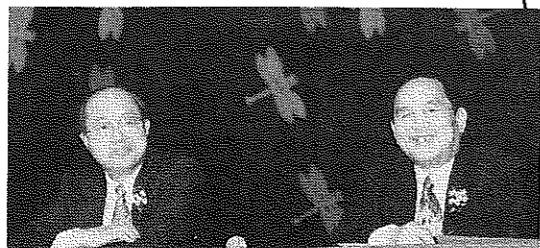
## 2-1 こんなこと、あんなこと

1996

**96年2月7日**  
**設立準備会事務所開き**  
 西淀川区、国道2号線沿いの三洋ビルの4階に事務所を構えました。公害患者、裁判の支援者などたくさんの方がお祝いに駆けつけました。重い重い期待と責務を背負っての活動がスタートしました。



96.3～機関誌リベラ発行  
 専従職員8人で本格的に事務局の活動を開始。何でもやってみようと思意満々の時期でした。



森 篤 森 脇

**96年3月24日**  
**公害地域再生シンポジウム**  
 財団設立の機運を高めようと開催しました。約300名が参加し、大盛況でした。かつて公害行政のあり方をめぐって公害患者らと激しく対立した関係者も交え、公害地域再生事業の意義を確認しました。



96.5  
 運営検討会で愛称を「あおぞら財団」に決定。応募作品の中には、「空と大地の財団」、「わくわくセンター」、「ドリームス」なんていう案もありました。川中實人氏のデザインによるシンボルマークも完成しました。



**96年6月1日**  
**第1回公園・空き地たんけん隊**  
 たくさんの人といっしょに西淀川の街を歩き、魅力を探ろうと企画した住民参加イベント。企画・運営は実行委員会が行なっています。その後、計6回で区内全域を歩きました。

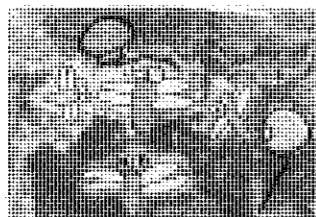


96.8～  
 職員の研修を兼ねて、「講座 西淀川に学ぶ」をはじめました。参加者数は先細りしたものの、西淀川を学ぶ良い機会だったと思います。

**96年9月11日**  
**国（環境庁）が設立を許可**  
 世界で初めて公害裁判の和解金を基金とした財団法人の誕生です。

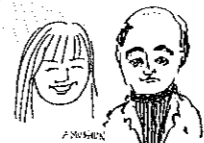


**96年11月8日**  
**あおぞら財団設立の集い**  
 あおぞら財団の設立を広くアピールしようと開いた集いです。「地域再生へのパートナーシップ 1st.Stage」と題して、講演、活動報告、合唱、音楽演奏など盛りだくさんのイベントでした。



リーフレットの作成からタイトルのネーミングにいたるまで何度も打合せを重ね、なんだかんだともめながら、苦勞してつくりあげた集いでした。西淀川区内の小学生を対象にトンボの絵を募集しました。集会の日に、絵ハガキにして参加者に配ったところ、大好評でした。

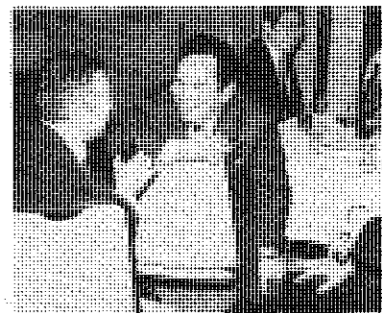
**96年11月28日**  
**矢倉海岸公園化計画について**  
**大阪市と懇談**  
 大阪市内唯一の自然海岸である矢倉海岸の公園化計画について大阪市から説明を受け、意見交換をおこないました。西淀川の貴重な自然資源として、矢倉の特性を活かした公園づくりを望む声があがりました。



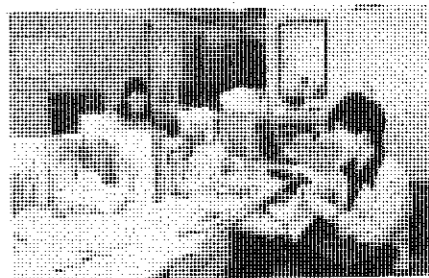
### 活動のきろく～番外編～

●職員読書会 (96/6/14～7/26)  
 週に1回、職員の読書会を始めました。イギリスでは環境保全ボランティアのバイブルと言われている「まちに自然をつくる」を読み進めていきましたが、最後の章にたどり着く前に、終わってしまいました。

●INO-CHU会 (96/7/5)  
 理事長(亥年)とその友人である辰巳正夫氏(子年)の還暦のお祝いにたくさんの方が集まり、にぎやかなパーティとなりました。企画から当日の司会進行まですべて事務局が担当しました。準備会設立後の最初の大きなイベントは大成功に終わりました。



●事務所模様替え (96/12/4)  
 資料室開設にともない、事務所の模様替えをおこないました。ささやかながら理事長室(コーナーというべきか?)ができました。理事長はときどき理事長室の窓から区役所をにらみつけていることがあります。何を考えているのでしょうか。



●事務局日誌をつけ始める (97/1/14～)  
 来訪者や所内の出来事を記録するために事務局日誌をつけることにしました。しかし1週間もたないうちに、理事長の絵日記となってしまったのでした。



淀川のシジミ取り・クマゼミのぬけがら集め・タンポポ・淀川河川敷のマツムシなどなど、西淀まちと自然の会にはいつも「西淀川にもまだまだ自然が残っているんだぞ」ということを教えてもらっています。

1997

97年3月23日

みつけよう西淀川のたからもの

西淀まちと自然の会との共催で矢倉海岸で水辺の観察会を開きました。西淀川こどもエコクラブのメンバーを中心に親子約80名が参加しました。子どもたちは、水辺で、熱心に植物やカニをスケッチしていました。大人たちも「気持ちいい。こんな近くにあってんなあ」と身近なオアシスの発見に大満足の様子でした。

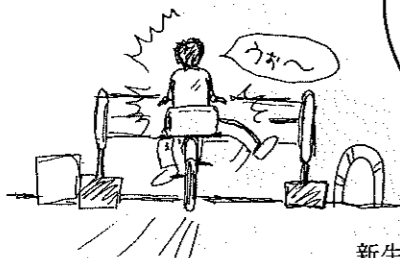


97年4月~

賛助会員制度の発足

新年度から賛助会員制度を発足させ、幅広い人々に支えられる財団として再スタートしました。

ばらまいていた機関誌 Libella も賛助会員向けとして一新しました。



新生 Libella の誕生です。読者の立場に立った誌面づくりをめざして、ああでもないこうでもないと言いながら、もがいています。



96.6 第3回通常理事会にアグネス・チャン理事が初参加。そのときのツーショット写真をコピーして、いろんな所に配り歩いている理事長の姿は少年のようでした。



97年3月4日  
台湾環境行政関係者の西淀川現場視察を案内

尼崎市の歴史的町並みと産業道路の状況、臨海工業地帯などを案内。現場視察のあと公害患者会との交流会もおこなわれました。

この頃から各地の自治体や団体等からの訪問や視察の申し込みが増えました。



97年6月14日  
シンポジウム「原風景から探る西淀川のまちづくり」を開催

住民の原体験や原風景を手がかりにまちの再生のあり方を考えようとするもの。たんけん隊活動・公害患者や西淀川区民へのヒアリング調査などこの間の財団の活動を報告しました。



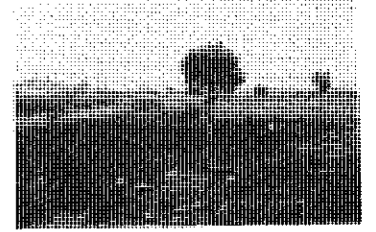
97年8月~  
中長期計画・財政計画策定委員会がスタート

それぞれ三村、芹沢両理事を責任者に、中長期的視野に立った事業のあり方と進め方と財団財政に向けた計画づくりをおこなう委員会が発足しました。



●総務主任「木こり」になる (97/1/30)

総務主任は公園化工事が始まった矢倉海岸のアキニレの伐採作業に参加しました。木の年輪など生育状況を調べるためです。その勇姿は翌日の朝日新聞に大きく写真入りで取り上げられました。ホームページでも見ることができます。



●会計主任が道でおじいさんをナンパ (97/3)

このおじいさんは古新聞の回収をボランティアでやっている人です。道で会計主任に声をかけられた日から、毎月欠かさず古新聞を取りに来てくれています。ありがたい存在です。

●学生・若手研究者交流会 (97/4/20)

事務所の5階がコンパ会場と化しました。西淀川をテーマにした卒論発表の他、世代・分野をこえた意見交流会は大いに盛り上がりました。

●設立記念日に尼崎市南部地域を見学 (97/9/11)

設立許可から1年。設立を記念して、尼崎市南部を見学しました。尼崎駅近くの水飴屋さんは大発見でした。

●シバタン読書会 (97/9/6~)

財団の活動に協力してくれている学生らの発意によって、柴田昌美氏(愛称:シバタン)をコーディネーターに、都市をテーマにした東西の古典を読む集いが始まりました。



## 2-2 機関誌Libellaのあゆみ



Libellaの創刊は1996年4月。以来月刊で発行。A4版4ページでのスタートでした。

当時は財団設立準備会の真っ最中。6月に設立発起人会を控え、公害被害者運動から生まれた新しい大事業・公害地域の再生を、多くの人たちに知らせようと1500人あまりの人々に無料で配付しました。

創刊2年目にあたる1997年4月からは、賛助会員向け機関誌として12ページ化、紙面の充実をはかりました。

Libellaには次のようなコーナーがあります。

### <論壇>

その時々々の焦点となっている環境・公害問題を、第一線で活躍する論者に解説してもらうコーナーです。鋭く、分かりやすい論文にご期待ください。

### <私の研究>

筆者の歴史や自然に関してこつこつと調査を続けている市井の研究家を登場。研究の一端を紹介し、

### <街のたからもの>

街の中にある「たからもの」、人・自然・歴史...その街のあらゆる魅力あるものに注目。人々が生き続けてきた歴史、そして人々が抱く未来への希望も織り込んで紹介していきます。第1シリーズは西淀川を連載中。

### <漢雲のでんわ帖>

漢雲は理事長の筆号です。エッセイに自筆の書や絵を添えて連載中。親しみやすい人柄をにじませて好評です。

### <各地の公害現場から>

公害や環境破壊と向き合い、その解決のために活動している現場からのレポートを掲載。運動の視点や到達点を交流していきます。

### <資料室通信>

「公害地域の再生はその地域を知ることから始まる」ことから設立された西淀川地域資料室の活動や、資料室をつかった展示企画などを紹介します。

### <えだまめ通信>

1997年5月から、大阪府立羽曳野病院でスタートした園芸療法パイロット事業の担当者が、その活動を参加者の「肉声」とともに伝えます。

### <職員のレポート>

未経験の大事業～公害地域の再生に取り組む職員のレポートを紹介します。

## Libellaを飾った人々

この間の執筆者を、タイトルとともに紹介します。

(敬称略)

### <1996年>

#### \*一筆直言

- 一方井誠治 力を合わせて新たな地球文明を(4月号)
- 塩崎賢明 公害地域の再生と道路問題(6月号)
- 大澤進 大気環境問題と市民参加(7月号)
- 小林光 環境破壊から再生する地域そして地球(8月号)
- 小山仁示 西淀川に博物館・資料館を(9月号)
- 歌川学 産業・生活様式の根本的転換を迫る地球温暖化/来年12月の条約会議京都開催を前に(10月号)
- 神吉紀世子 公害地域再生マスタープランづくりへ(12月号)

#### \*その他

- 北元敏夫 タンポポが西淀川区内の環境を警告する(5月号)

### <1997年>

#### \*一筆直言

- 早川光俊 COP3と日本の市民の役割(1月号)
- 柴田昌美 公園についての2つの言葉(2月号)
- シュベネマン真 世界に発信できるものは何か(3月号)

#### \*論壇

- 宮本憲一 地域再生は世紀の課題(4月号)
- 芹沢芳郎 大阪の公害をなくす住民運動の歴史から

### 公害地域再生を考える(5月号)

- 三宅宏司 産業遺産の活用とまちづくり(6月号)
- 高田昇 みんなでつくる「西淀川地域再生マスタープラン」(7月号)
- 三村浩史 工業専用地域への反対運動と公害地域再生への始動(8月号)
- 圓藤吟史 0-157とわが国の衛生事情(9月号)

#### \*各地の公害現場から

- 傘木宏夫 震災を経て公害の街へ/深刻な海上都市の大気汚染(4月号)
- 松光子 韓国・麗川工業団地における環境汚染問題/現地視察と日韓共同シンポジウムに参加して(5月号)
- 高野秀男 差別・偏見をのりこえ、人のいたみがわかる人づくりへ(6月号)
- 山本義幸 大塩・的形地区リゾート計画の破綻と展望(7月号)
- 片岡法子 イタイイタイ病の現場は今/第26回神岡鉱山立入調査に参加して(8月号)
- 中山裕二 いまみなまたで(9月号)

#### \*私の研究

- 柴田園子 産業公害地域における地域再生手法の研究/大阪市西淀川区における原風景復元の考察(4月号)
- 北元敏夫、西山圭三 アキニレ調査から大阪市西淀川区内の水辺の貴重な環境を追う(5月号)
- 福田憲一 水鳥の環境問題・まちづくりに関わって(6月号)
- 西山圭三 矢倉海岸の自然と野鳥(7月号)
- 八木剛 生きもの・場・子どもたち/大和田小学校区における昆虫の貴重性(8月号)
- 傘木宏夫 統計からみる工業都市の健康(9月号)

#### \*職員のレポート

- 達脇明子 「西淀川の震災展」に取り組んで(4月号)
- 三宅雅美 公害患者達の原風景を訪ねて(5月号)
- 鎗山善理子 ドイツ・ルール工業地帯の地域再生プロジェクト/I BAエムシャープークを視察して(6月号)
- 片岡法子 「公害経験を伝える」ということ(7月号)
- 上田敏幸 がんばってます。エコクラブ(8月号)
- 大野みさ子 自らの手で健康回復を/西淀川公害患者会の転地療養(9月号)

#### \*街のたからもの

- ウナギとジミ 魚介が湧く「交差点」
- 緑の担い手たち 街の「えべっさん」
- 北向き地藏 自治を映す鏡
- 大和田街道 花をつけない金木犀
- 矢倉海岸 大阪湾の緑の島
- 二つの井戸 命を育む大気と水
- 佃・正行寺 「都会の田舎」の鐘楼
- 大野川緑陰道路 東西に貫く緑の街道
- 勤労青少年ホーム 世代広げる仲間づくりの拠点
- 野里商店街 人と活力を運んできた鉄道
- 大和田 「街の便利屋でありたい」
- 西淀まちと自然の会 身近な自然の守り手



## 2-3 できました「西淀川地域資料室」

### 1. 「西淀川地域資料室」の開設

財団事業の柱のひとつに、公害経験事業という日本の公害被害者の経験を後世に伝えることを目的にした活動があります。その具体的な目標としては、西淀川に公害・環境問題の発信基地としての博物館、地域に根差した資料館構想の実現です。約20年に及ぶ西淀川公害訴訟に関する膨大な資料の収集・保存・整理も急務です。財団が1996年12月に「西淀川地域資料室」を開設したのは、このような財団の将来を見据えてのことでした。

西淀川公害訴訟弁護団所有の資料を手始めに、公害に関する住民運動資料の整理・記録作業は緒に就いたばかりですが、市民みずからが地域の歴史を保存し、それを地域の歴史・文化的遺産として現在と未来に活用していく試みとして、大きな意義をもっていると考えています。

資料室は、事務所ビルの5階です。利用日は、原則として土・日・祭日を除く、平日午前9時30分から午後5時30分です。

### 2. インターネットにホームページを開設

国内外との交流を促進し、公害の経験や西淀川での地域再生の取り組みを情報発信するために、1996年2月ホームページを開設しました。

現在は利用範囲も広がり、学校の教材としても使われ始めました。公害被害者の実態を初めて知った小学生から生き生きとした感想も数多く寄せられるようになってきました。



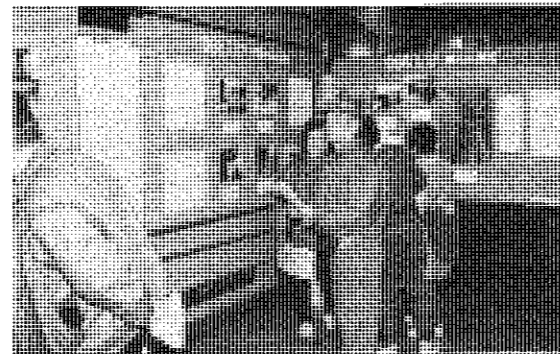
### 3. 展示活動

#### (1) 西淀川の震災展

(1997年1月17～19日：エルモ西淀川  
1月27日～2月8日：西淀川地域資料室)

阪神・淡路大震災から2年を経た1997年1月、区民会館「エルモ西淀川」で「西淀川の震災展」を開催しました。1996年11月、震災直後から地道で粘り強い救援・復興活動を続けていた区内11の諸団体とともに実行委員会を結成して、区内住民をはじめ各方面へ、広く資料の提供を呼びかけました。その呼びかけに応じて、1000点以上の資料が寄せられました。

パネルやキャプション作成は、「公害博物館(仮称)」基本構想委員会座長・関西大学教授小山仁示氏の紹介により富阪賢(貝塚市郷土資料室)・恵子(兵庫県史編集室)夫妻に連日ボランティアとして作業をしてもらいました。30枚に及ぶ展示パネルのほかに消防署や地元企業から提供された防災グッズや豊富な写真が展示さ



れ、トーク&トークをはじめとする多彩な行事にも多くの人々が参加しました。

3日間の開催中、約900人が来場し、行政・歴史研究者・博物館関係者の間でも注目される展示となりました。また、100人余りがアンケートに答えましたが、「この震災展を通じて、住民みずからまちづくりに参加することの重要さがひしひしと感じられました」等の感想も見られました。

6月には、『小さな街の大きな被害「西淀川の震災展」の記録』を出版しましたが、「これに

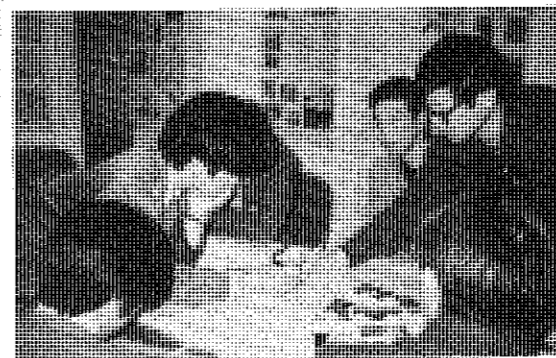
よって震災展の記憶を止めることができる」との市民からの感想も寄せられました。

#### (2) 西淀川の土地の変化—地図と絵図、写真からよみがえる私たちの原風景展—

(1997年2月25日～3月19日：西淀川地域資料室)

財団では、1996年度住友財団の助成事業として「住民参加による環境履歴調査に関する研究」に取り組みましたが、その成果のひとつがこのパネル作成でした。

大阪芸術大学学生奥川良介氏に制作を依頼したこのパネル展には、100人を超える人々が訪れました。同展は、地域の歴史や移り変わりを知り、個々人の思い出の中にある「原風景」を探ることから、これからの地域像を考えようとするものでした。



2月27日には「語る会—私の原風景」を開催しましたが、30代から50代の区内在住の語り部3人により、昭和30～40年代の話題が活発に出されました。

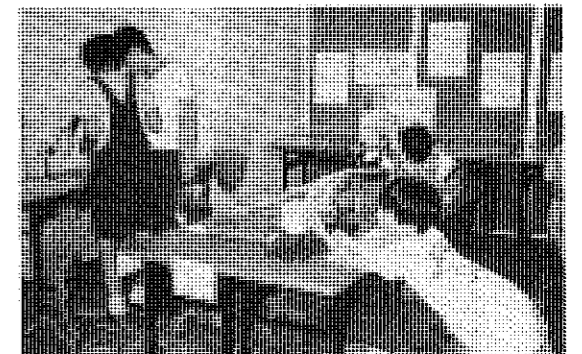
さらに、6月14日の「原風景から探る西淀川のまちづくり」シンポジウムでも展示しましたが、多くの参加者がなつかしい風景にじっと見入っていました。

#### (3) 西淀川のいきもの展

(1997年7月1日～8月29日：西淀川地域資料室)

「公害のまちにも自然は生きている。地域の自然環境を正しく理解することからまちづくりははじまる」という基本的な考え方から、地元で10年近く自然環境調査を行っている「西淀まちと自然の会」とともに企画・制作を行いました。

北元敏夫氏(同志社大学講師、植物生態学)と八木剛氏(兵庫県立人と自然の博物館研究員、昆虫学)に高度な知識と初心者にも興味をそそる内容を合わせ持った展示物を作成してもらい、西山圭三氏(西淀まちと自然の会、日本野



鳥の会会員、鳥類学)、山崎一夫氏(大阪市立環境科学研究所所員、昆虫学)、恩地実氏(甲南高校教諭、西淀まちと自然の会会員、哺乳類学)、丸橋寿夫氏(西淀まちと自然の会会員、鳥類学)にも協力をお願いしました。来場した約200人の人々は、それぞれの関心にそって、熱心に見学していました。

8月19日には、関連行事として「西淀川の自然を語る会」を開催しましたが、地元の人々、自然環境調査の専門家など14人が参加して、西淀川地域についての積極的な意見交換が行われました。その中で、専門家からは地域をフィールドミュージアムとしてとらえる発想が必要との意見が強く出されました。

## 2-4 財政報告

### 1996年度の財政状況 (1996年9月11日～1997年3月31日)

財団設立準備のため、西淀川公害患者と家族の会より、和解条項に盛り込まれた公害地域再生のための基金6億円より3億9,000万円の寄付を受け、1996年2月7日、財団法人公害地域再生センター設立準備会が発足しました。

1996年9月11日財団許可に伴い3億1,000万円を基本財産、準備会より引き継いだ2,800万円を期首財産としてスタートしました。その後、西淀川公害患者会

より残りの基金2億1,000万円の寄付を受け、財団として本格的に活動を開始しました。

96年度は、基金としての患者会からの寄付金2億1,000万円を除くと収入合計3,200万円、支出合計5,400万円で2,200万円の支出超過となりました。

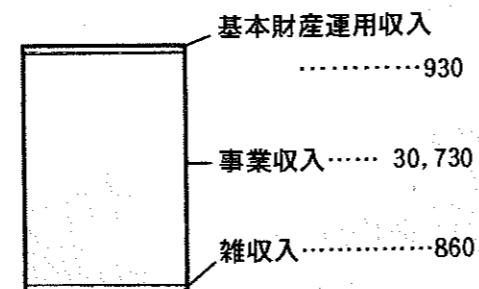
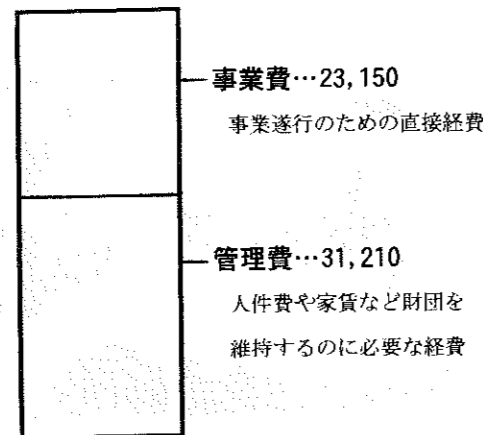
貴重な和解金より拠出された財団の財産を取り崩さないために、今後財政的自立をはかることが課題となっています。

#### ●収入・支出の状況

(単位：千円)

支出 合計 54,360

収入 合計 32,520

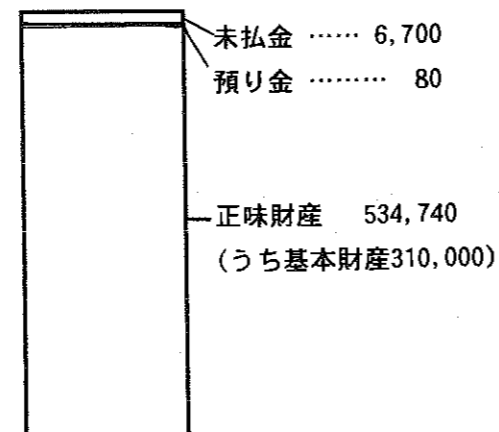
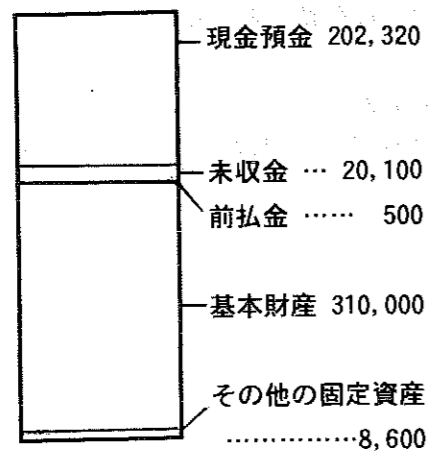


#### ●貸借対照表

(単位：千円)

資産 合計 541,520

負債・正味財産 合計 541,520



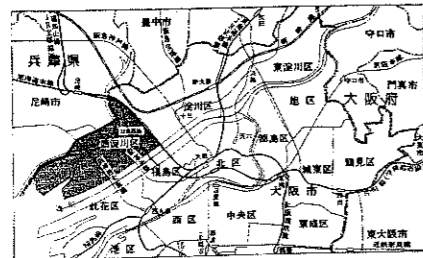
## 3. 報告書・出版物のダイジェスト

公害地域の再生をテーマに、あおぞら財団がかかわった調査研究の報告書および出版物をまとめました。



### 安全な地域環境の再生に関する調査研究報告書

1996年3月



#### 目的と方法

現代社会は、工業化・都市化のなかで、大気や水・土壌のなかに様々な汚染物質や化学物質等を排出し続け、複合的な環境汚染を進行・蓄積させている。本調査研究は、工業地帯としての長い歴史をもち、高密度な住工混在地域となっている大阪市西淀川区をモデル地域に、住民参加による環境保全活動にたいする支援方策と、環境安全施策の住民参加による展開方策を検討し、提言しようとするものである。

モデル地域における環境汚染の課題整理、パイロット事業のすすめ方の検討は専門委員会にておこなった。

#### 第1章 モデル地域の現況と環境安全対策上の課題

西淀川区は激甚な大気汚染公害の地として知られる。阪神工業地帯を東西につなぐ主要幹線道路が集中していることから NOx や浮遊粒子状物質による大気汚染は依然深刻な状況にある。

典型的な住工混在地域である同区では、埋め立てによる造成や戦前からの長い公害の歴史により、土壌汚染の問題が指摘されてきたが、十分な調査はなされていない。本調査研究では、モデル地域から4地点を選び、土壌中の重金属含有率のサンプル調査をおこなった。都市公園においても相当の含有率を示しており、土壌汚染対策の必要性を浮き彫りにしている。

#### 第2章 環境保全活動を通じたリスクコミュニケーションの可能性

様々な環境リスクとの共存がもたれられる住工混在地域のようなどころでは、行政・企業の側からの情報公開はもとより、住民自身が地域の環境について学び、積極的に係ることを通じて環境安全対策の一端を担うことが必要である。

近年、土壌汚染のような蓄積性の環境リスク対策が重大な課題となりつつあるなかで、国内外で様々な策が講じられつつある。しかし、住民の主体的な関与はまだ例が少ない。

#### 第3章 安全な地域環境の再生のために

住民参加型による環境安全対策のパイロット事業のすすめ方のイメージを次のように提示。①専門家と市民によるワークショップを組織、②住民参加で環境リスクの調査活動を試行、③植樹や公園づくりと連動した環境モニタリング調査を試行、④住民参加型活動のマニュアルを検討・作成。

#### 専門委員会の体制

##### 専門委員

- 座長 植田和弘 (京都大学経済学部教授)
- 委員 圓藤吟史 (大阪市立大学医学部教授)
- 阿部 功 (大阪薬科大学助教授)
- 重松敏則 (九州芸術工科大学教授)
- 浦邊真郎 ((株)アーシン代表取締役)
- 森脇君雄 (全国公害患者の会連合会 幹事長)

##### オブザーバー

- 三宅雅美、鎗山善理子 ((財)公害地域再生センター設立準備会研究員)
- 事務局: (株)関西総合研究所
- 担当: 傘木宏夫 (主任研究員)
- 江川誠一 (研究員)

### 環境保全活動を通じた公害患者等のリハビリテーションの可能性に関する調査研究報告書

1996年3月

#### 目的と方法

地域再生事業は、公害に起因する新たな健康被害を生み出さないような地域づくりを目標としており、公害病患者や喘息児童の心身のリハビリテーションを健康回復事業として展開することが求められる。

本調査研究では専門委員会を設置し、次の3点を検討課題としている。①環境との関わりをもつ療法(箱庭療法や園芸療法等)の公害病患者等への適応可能性、②公害病患者等が参加可能な環境保全活動のあり方、③上記①と②を総合的に推進するための条件。

#### 第1章 都市と人間のための環境保健

21世紀の都市計画の課題は、人間生活の安全保障であり、地球環境保全と同様に人間の生存を保障する地域環境整備である。この意味から、地域のリハビリテーションを通じた人と社会のリハビリテーションをめざす方向が、ここに提起されている。

#### 第2章 園芸とリハビリテーション

園芸療法は、私たちに対して園芸がもたらす様々な効果を活用して、心身の健康回復、維持あるいは増進に役立てようとするものである。

植物に五感を通して受動的(感覚的)にかかわること(感覚体験)が本能的に心理状態を安定させるうえで有効なことはよく知られているが、園芸活動はそれらに積極的ににかかわり、人間らしさを能動的に創出していく過程である。しがたって、地域再生ならびに公害病患者の人間性回復に当たって園芸活動が大きな役割を果たす。

#### 第3章 施策展開の可能性

保健医療福祉分野における園芸療法活用の可能性と必要性は今後ともますます大きくなると考えられる。例えば、医療法に基づく病院・診療所、老人保健法に基づく老人保健施設などにおいて。

また、公害患者自らが園芸療法を通じて、自分たちの地域づくりに携わることは、長年にわたる裁判闘争運動のなかで抱いてきた「公害のない美しい街を子や孫に手渡したい」という願いを自ら実践することであり、高齢者対策という意味も含めて非常に重要と考えられる。

#### 第4章 今後の事業展開のために

今後は、とりわけ呼吸器疾患に対する園芸療法の実効性を実証するためのパイロット事業に取り組み、リハビリテーションのカリキュラムの具体化を試みる。

#### 専門委員会の体制

##### 専門委員

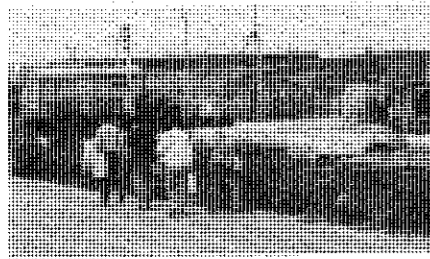
- 逢坂隆子 (花園大学社会福祉学部教授)
- 豊島協一郎 (大阪府立羽曳野病院 小児科部長)
- 松尾英輔 (九州大学教授/園芸学)
- 宗田好史 (京都府立大学助教授 /都市計画)
- 安岡正具 ((社)西淀川医師会副会長)
- 森脇君雄 (全国公害患者の会連合会 幹事長)

##### オブザーバー

- 岩瀬紳子 (西淀川保健所所長)
- 西田道弘 (環境庁保健業務室室長補佐)
- 佐々木健 (環境庁保健業務室主査)
- 大野みさ子、三宅雅美 ((財)公害地域再生センター設立準備会研究員)
- 事務局: (株)関西総合研究所
- 担当: 傘木宏夫 (主任研究員)
- 江川誠一 (研究員)

# 大都市における工業団地と地域住民のパートナーシップによる植樹事業手法に関する調査研究報告書

1996年3月



## 目的と方法

大都市部では、住工混在に伴う公害・環境問題への対策として、工業専用地域等への工業団地整備がすすめられている。これらの工業団地では、土地区画整理法や自治体への条例等に基づき、一定規模の公園緑地が整備されている。

本調査研究では、環境基本計画の基本理念である「参加」、とりわけ地域社会の様々な主体のパートナーシップによる環境保全・創造の活動という観点から、大都市部の工業地帯において、大気浄化に寄与しつつ、かつ住民が利用しやすく、住工調和を推進するような公園整備の手法を、具体的な事例に即して検討している。

## 第1章 ケーススタディ地域の現況

西淀川区では、SPM や NOx による大気汚染が現在もお深刻である。土地利用に関しては、臨海部に大きく広がる工業専用地域を中心に、大規模な工業系の土地利用がなされている。工業専用地域は、公害・環境問題対策として、住工それぞれの土地利用の純化がすすめられたことによるもので、住民の生活やコミュニティとのつながりが弱いといえる。

こうした西淀川区の状況からみて、大阪工業団地内における住民参加による植樹事業の取り組みは、大気汚染防止という点から、コミュニティ機能の活性化という点から非常に重要である。

## 第2章 住民参加型の公園づくりの事例と意義

住民参加型の公園づくりを進めていく上で参考となる事例を調査し、その意義を確認した。

海外事例：ミラノ市民の森（伊）、グラウンドワークトラスト（英）

国内事例：プレパーク事業（世田谷）など

## 第3章 導入可能な施策の検討

近年、行政施策において住民参加を重視し、そうした要素を企画から事業化、運営等の各段階に反映する取り組みが増えている。住民参加型の公園づくりの条件が広がっているといえる。

## 第4章 パイロット事業の検討

事業をすすめるにあたっては、所有権をめぐる問題や地理的な問題が明らかになった。対応策も含めて、今後の事業展開には、ワークショップ方式の導入、専門業者との連携の必要性が指摘された。

### 専門委員会の体制

#### 専門委員

- 若生謙二（大阪芸術大学助教授／造園学）
- 大村瑠子（遊びの環境デザイナー）
- 北元敏夫（同志社大学工学部講師）
- 柴田昌美（社会教育主事）
- 森脇君雄（全国公害患者の会連合会 幹事長）

#### オブザーバー

- 三宅雅美（(財)公害地域再生センター設立 準備会研究員）

#### 事務局：(株)関西総合研究所

- 担当：傘木宏夫（主任研究員）
- 江川誠一（研究員）

# 日本型パートナーシップ構築のために—公害地域再生事業の提案—

1997年8月

## 目的と方法

本研究では、公害で疲弊した地域の再生へと歩みだしている大阪市西淀川区での取り組みや国内外の事例をレビューし、行政・企業・市民が対等な立場において進めていく協働関係をパートナーシップと位置づけて、そのような関係による事業の展開方策と、わが国におけるパートナーシップ構築に資する具体的な方策を提言することを目的としている。

研究をすすめるにあたっては、行政関係者、企業、市民、学生等の様々な立場からの参加者を交えた公開研究会（計6回）を開催し、幅広く意見や提言を取り入れた。

## 第1章 公害地域の再生—その意義と課題

本研究では、「公害地域」という表現を使い、それを「かつて及び現在進行している公害により疲弊している地域」と定義した。このような地域においては、自然環境面の再生のみならず、住民の健康で文化的な生活に基礎をおいたコミュニティ機能の回復、歴史・文化の掘り起こしと創造、環境や生活と調和した都市型産業の再構築、損なわれてきた行政・企業・住民相互の信頼関係の再構築が必要となっており、そういうものの総和として「地域再生」の課題が提起されている。

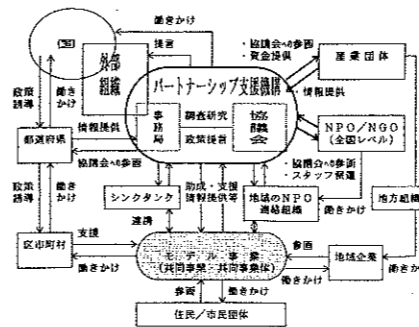
## 第2章 パートナーシップによる地域づくり活動の動向

海外の事例からは、パートナーシップを仲介する機関の必要性、市民パワーの育成と組織化、地域社会の一員として企業セクターを取り込む工夫などを、わが国におけるパートナーシップ構築へのヒントとして見出した。

国内においても、第3セクター方式の経験、企業におけるフィランソロピーや行政におけるまちづくり条例等の市民活動支援の施策等、検討材料は少なくない。しかしまだ市民セクターの活動基盤は「対等な関係」を構築するには脆弱である。基盤強化とともに、行政や企業との連携をコーディネートする専門家の役割が重要だと考えられる。

## 第3章 わが国におけるパートナーシップの構築のために

公害地域再生事業の発展のために、①共同事業体の形成とパートナーシップ・モデルの推進、②公害地域再生事業の体系化、の2点を提起。さらに、地域開発におけるシンクタンクの役割を重視し、調査研究・提言やパイロット事業の推進を財政面、運用面で支援するなど機能をもつ「パートナーシップ支援機構」の設立を提言する。



### 共同研究者

#### (社)大阪自治体問題研究所

- 理事 中山 徹
- (奈良女子大学助教授)
- 事務局長 織原 泰

#### (株)関西総合研究所

- 専務取締役 松元隆平
- 取締役 赤澤 仁
- 研究員 江川誠一

#### (財)公害地域再生センター

- 研究主任 傘木宏夫
- 研究員 鎗山善理子

# 住工混在地域における各主体のパートナーシップによる植樹手法に関する調査報告書

1997年3月

## 目的と方法

近年の大気汚染問題は、公害防止技術の発達等により、大規模工場に由来するものは飛躍的な改善をみた。しかし、大都市部の住工混在地域では、先端的な環境技術の導入が経営的に困難な中小零細工場が多く、悪臭・騒音等も含め、課題は山積している。

本研究では、住工混在地域のモデルとして、大阪市西淀川区の御幣島地区を対象地に、土地の緑化とその有効利用を、行政・企業・住民のパートナーシップですすめるための方策を検討している。

ここでは、対象地区に位置する民有地（財）淀川勤労者厚生協会所有）での緑化活動をパイロット事業として位置づけている。

## 第1章 モデル地区の現況

特徴は以下のようにまとめられる。

- ・地域環境上の課題が山積（悪臭、騒音、大気汚染、アメニティ欠乏）
- ・高齢化、外国人労働者多い
- ・工場跡地にマンションが立地、混在化／土地利用の変化が激しい
- ・機械、金属系の工場が多数
- ・中小工場は住居兼用が多く、余地がほとんどなく、緑環境は皆無

## 第2章 住工共生にむけた取り組みの動向

住工共生型といわれる工業地区整備の事例をレビューし、次のような特徴や参考となる事項を得た。

- ①国内では新しい工業団地づくり広がっている、②市街地では住民の積極的なかわりが重要、③住民との連携による工場緑化の可能性、④総合的な地域整備の必要性

## 第3章 モデル地域における植樹事業の方向性

植樹事業をすすめるにあたっては、面的な地区整備事業等と連動した大気浄化事業を構築することが重要であり、そのためには、関係機関や地域関係者の合意形成とそれに基づく計画（マスタープラン）が必要となる。また、マスタープランの実現を図るためにはNPO（非営利組織）が、計画の実行管理等をすすめる上で有効と考えられる。

## 第4章 総括

今後は、今年度のフィールド調査等の結果を基に、アンケートやヒアリング調査により地域関係者の意向を把握し、めざすべき工業都市像を分析する。

### 専門委員会の体制

#### 専門委員

- 北元敏夫（同志社大学工学部講師）
- 北條連英（株）ア・パ・プランニング研究所代表取締役
- 若生謙二（大阪芸術大学助教授／造園学）
- 森脇君雄（全国公害患者の会連合会幹事長）

#### ゲスト

- 田原潮二（樋口池グループ）

#### オブザーバー

- 柳橋泰生（公害健康被害補償予防協会）
- 杉崎浩和（公害健康被害補償予防協会）
- 西 英子（奈良女子大学大学院）

#### 事務局：(財)公害地域再生センター

- 担当：傘木宏夫（研究主任）
- 三宅雅美（研究員）

# 道路公害をなくす緊急提言（案）

1996年9月（定価500円）

## 提言にあたって

西淀川公害裁判は、1995年7月5日、はじめて自動車排ガスの健康被害を認め、国と阪神高速道路公団の公害責任を厳しく追及する原告勝利の判決が言い渡された。

判決の指摘を待つまでもなく、道路からの自動車排ガス公害と騒音公害は今なお深刻である。私たちは、こうした状況を踏まえて今回「道路公害をなくす緊急提言（案）」をまとめ、関係官庁が早期に道路公害対策を実施することを要望するものである。

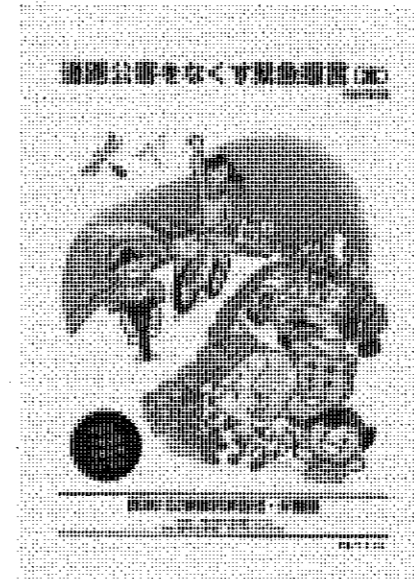
## 西淀川区の道路公害対策について

- (1) 道路構造対策について
- (2) 道路沿道対策について
- (3) 交通規制等の対策について
- (4) 歩行者、自転車優先の交通環境の実現にむけて

## 資料編

沿道調査の結果について（神戸大学 塩崎賢明）

沿道建物利用状況



# 小さな街の大きな被害 「西淀川の震災展」の記録

1997年6月（定価300円）

あの日から丸二年の歳月がすぎ、当時の模様を地域住民とあおぞら財団、労働組合などが、区内での被災状況や、震災体験、救援の活動を記録にとめ、安心して住める街、人と人の温もりの中で、だれもが暮らし続けられる西淀川の街になることを願って震災展を開きました（1997年1月17～19日／エルモ西淀川）。

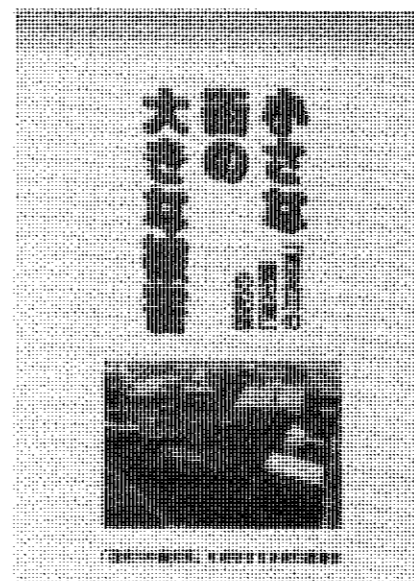
ここに「西淀川の震災展」の記録をお届けします。

## 内容

- 崩れた堤防
- 吹き出した土砂
- 寸断された道
- 怒りの住民
- 壊れた街・くらし
- 西淀川の災害史
- 私たちの願い
- 復興への連帯

## その他

わたしの震災体験／トーク&トーク／自転車キャラバン隊の体験



## 4. 資料「活動記録」

- 活動記録年表
- 新聞掲載、テレビ放映
- 対外報告

●活動記録年表

1996年

2月

- 06.第1回運営検討会
- 07.設立準備会事務所開き
- 11~17.公害経験海外ワークショップ(於台湾・タイ)(参加:森脇・傘木)
- 20.環境庁「21世紀の環境保健」検討委員会(講師:傘木)

3月

- 01.事務局会議
- 05.事務局会議
- 07.リハビリ第2回専門委員会
- 08.川崎「はるかぜ行動」(参加:辰巳・上田・鎗山・片岡)
- 09.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 10.第2回運営検討会
- 11.事務局懇親会
- 12.事務局会議
- 15.環境安全第3回専門委員会
- 24.公害地域再生シンポジウム
- 25.所内企画書づくり講座
- 27.所内グラウンドワーク学習会

4月

- 02.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 03.尼崎南部再生プラン打ち合わせ
- 04.第3回運営検討会  
災害法理論研究会(講師:傘木)
- 08.公害研究委員会視察受け入れ
- 09.事務局会議
- 10・19.西淀川区区内小学校のトンボ生息状況についてのヒアリング調査
- 11.工業団地植樹第1回専門委員会  
リハビリ第3回専門委員会
- 12.Libella発送
- 13.淀協友の会千北支部総会記念講演(講師:傘木)
- 15・16.西淀川患者会転地療養  
(参加:上田・大野・辰巳・三宅・鎗山)
- 17.事務局会議
- 19.所内道路問題学習会
- 22.アースデー兵庫の集い(講師:傘木)
- 23.事務局会議
- 24.道路提言検討会(参加:上田・鎗山)
- 26.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)  
尼崎南部再生プラン打ち合わせ
- 30.道路沿道実態調査  
(国道2号線・43号線・阪神高速池田線)  
第4回運営検討会

5月

- 01.事務局会議
- 07.事務局会議

09.工業団地植樹第2回専門委員会

- 14.事務局会議
- 15.リハビリ第4回専門委員会
- 16.第1回公害博物館構想委員会
- 17.環境安全第4回専門委員会
- 18.第1回たんけん隊実行委員会
- 20.事務局会議  
Libella発送
- 21.倉敷「あおぞら行動」(参加:上田・片岡・三宅)
- 22.第5回運営検討会
- 23.尼崎南部再生プラン打ち合わせ
- 27.事務局会議  
道路提言検討会(参加:上田・鎗山)
- 29.第2回たんけん隊実行委員会  
震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 31.関西総合研究所新人研修受け入れ

6月

- 01.第1回公園・空き地たんけん隊
- 03.事務局会議
- 04.第21回全国公害被害者総行動デー  
(参加:上田・大野・辰巳・鎗山)
- 06.工業団地植樹第3回専門委員会
- 07.職員研修・リパティ大阪見学
- 09.シンポジウム「尼崎南部再生への道」  
(参加:森脇・上田・傘木・大野・辰巳・鎗山・三宅)
- 10.事務局会議  
西淀川裁判判決行動懇談会  
(参加:上田・大野・辰巳・鎗山・片岡)
- 12.第3回たんけん隊実行委員会  
震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 13.職員研修・ピース大阪見学
- 14.職員読書会「まちに自然をつくる」
- 17.事務局会議
- 18.Libella発送
- 21.環境安全第5回専門委員会  
職員読書会
- 22.設立発起人会
- 24.事務局会議
- 26.道路提言検討会(参加:上田・鎗山)  
第2回公害博物館構想委員会  
子どもプロジェクト打ち合わせ
- 28.職員読書会  
大阪湾ベイエリアアウトチング  
(参加:辰巳・片岡・鎗山)  
第6回運営検討会(愛称「あおぞら財団」に決定)

7月

- 01.事務局会議
- 02.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 05.岡山県有漢町視察受け入れ  
職員読書会
- 08.事務局会議

第4回たんけん隊実行委員会

- パントラップ調査開始(以後毎月1回)
- 12.職員読書会  
佃西小学校エコ会議  
(参加:鎗山・片岡・三宅・辰巳)
- 13.石炭火力シンポ(講師:傘木)
- 15.事務局会議
- 16.子どもプロジェクト打ち合わせ  
中央環境審議会(参加:上田)
- 17.リハビリ第5回専門委員会  
尼崎環境基本計画学習会(講師:傘木):
- 18. Libella発送
- 19.職員読書会  
パートナーシップ協議会(参加:傘木)
- 20~21.世田谷プレーパーク視察  
(参加:傘木・辰巳・鎗山)
- 22.事務局会議  
西淀川公判「ひまわりデー」  
(参加:上田・大野・鎗山・片岡・三宅)
- 24~25.三島グラウンドワーク実行委員会視察  
(参加:傘木・片岡・鎗山)
- 25.第7回運営検討会
- 26.職員読書会  
震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 29.事務局会議
- 31.環境アセスを考える会(参加:鎗山・片岡)  
経団連視察受け入れ

8月

- 01.中央環境審議会環境アセスメント法制化第1回ヒアリング(参加:森脇・上田)
- 04~13.イギリス園芸療法視察ツアー  
(参加:大野・三宅)
- 05.事務局会議
- 06.関西電力立ち入り調査  
(参加:森脇・傘木・片岡・鎗山)
- 07.エコクラブ説明会開催
- 08.第5回たんけん隊実行委員会
- 10.道路提言検討会(参加:上田・鎗山)
- 19.事務局会議
- 21.「環境と公害」教育研究会来所
- 22.パートナーシップ協議会懇親会(委員:森脇)
- 23.第1回西淀川講座
- 24.関西環境NGOネットワーク学習会(参加:鎗山・片岡)
- 25.第2回公園・空き地たんけん隊
- 26.事務局会議
- 27.子どもプロジェクト打ち合わせ  
NIRA助成研究第1回公開研究会
- 28.第8回運営検討会  
大阪歴史学会との打ち合わせ
- 29.環境アセスメント公聴会

9月

- 02.地球環境基金海外研修報告会(参加:傘木)
- 04.事務局会議
- 06.第3回公害博物館構想委員会
- 10.道路提言検討会(参加:上田・鎗山)  
事務局会議
- 11.財団設立許可
- 12.子どもと環境研究会世話人会
- 13.第2回西淀川講座
- 14.日本科学者会議被災地視察(講師:傘木)
- 17.第9回運営検討会  
事務局会議
- 19.第6回たんけん隊実行委員会
- 20.Libella発送
- 24.事務局会議  
NIRA助成研究第2回公開研究会
- 26.第1回パートナーシップ協議会(委員:森脇)
- 30.子どもと環境研究会  
道路提言検討会(参加:上田・鎗山)  
世田谷楽働クラブ視察(参加:大野・三宅)  
ホーティカルチュラル・セラピー・フォーラム  
(参加:大野・三宅)

10月

- 01.事務局会議
- 02.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 04.第7回たんけん隊実行委員会
- 05.第3回西淀川講座  
NIRA助成研究第3回公開研究会
- 07.事務局会議
- 07.建設省交渉見学(参加:上田・鎗山)
- 08.設立の集い打ち合わせ
- 09.合同製鉄立ち入り調査(参加:森脇・上田)
- 09.第3回西淀川講座  
西淀川公判(参加:上田・三宅)
- 13.第1回通常理事会
- 14.事務局会議
- 18.第4回公害博物館構想委員会  
道路提言検討会(参加:上田・鎗山)
- 19.都市住宅学会NPOシンポ(参加:鎗山・三宅)
- 21.事務局会議  
Libella発送
- 26.道路沿道緊急提言シンポ(司会:鎗山)
- 27.西淀川船上観察会
- 28.職員1日学習会
- 29.地球環境パートナーシッププラザ開式  
(参加:傘木)
- 30.アグネス理事メッセージ収録  
西淀労連総会(参加:鎗山・片岡)
- 31.西淀川公判(参加:上田)

11月

- 04・05.西淀川患者会転地療養

- (参加:大野・鎗山・片岡・三宅)
- 08.財団設立の集い(大阪)
- 09.四日市地球環境シンポジウム(パネラー:森脇)
- 09~11.道路公害全国交流会(於川崎)
- (参加:傘木・鎗山)
- 11.子どもと環境研究会世話人会  
公害健康被害補償予防協会公害経験検討会  
(検討委員:森脇)
- 12.NIRA助成研究第4回公開研究会
- 13.事務局会議
- 14.第8回たんけん隊実行委員会
- 16.トヨタ財団助成研究第1回研究会
- 18.事務局会議  
子どもと環境研究会  
環境NGOと関係省庁懇談会(参加:傘木)
- 17~24.ドイツIBAエムシャーパーク視察  
(参加:鎗山)
- 19.第10回運営検討会
- 20.「西淀川の震災展」打ち合わせ会  
Libella発送
- 22.財団設立の集い(東京)
- 24.第3回まちづくりたんけん隊
- 25.事務局会議  
震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 26.第1回「西淀川の震災展」実行委員会
- 27.大阪市立大学西村研究室西淀川現地視察受け入れ  
公害健康被害補償予防協会公害経験検討委員会  
(委員:森脇)
- 28.矢倉海岸公園化計画について大阪市と懇談
- 29.尼崎公害裁判「あかとんぼ集い」  
(参加:森脇・傘木・鎗山・達脇・三宅)
- 29~12/01.史料保存研究会(参加:片岡)
- 30.大阪公害患者の会連合会20周年の集い  
(参加:上田・大野・鎗山)  
香養小学校5年生合同授業(講師:傘木・鎗山)  
日本園芸療法研究会総会(参加:三宅)

12月

- 01.気候フォーラム設立会議(参加:森脇・上田)
- 02.事務局会議
- 04.瀬戸内の環境を守る会連絡会学習会(講師:傘木)
- 05.西宮北口の再開発を考える会学習会(講師:傘木)
- 06.主任会議
- 07.日本生態学会近畿地区会(報告:鎗山)
- 09.事務局会議  
子どもと環境研究会  
トヨタ財団助成研究第2回研究会
- 10.第5回公害博物館構想委員会  
NIRA助成研究第5回公開研究会
- 11.第2回「西淀川の震災展」実行委員会
- 13.第1回地域再生講座  
第5回公害博物館構想委員会  
倉敷市と懇談

- 16.事務局会議  
事務所5階に西淀川地域資料室を開設
- 17.「子どもと環境研究会」児童館見学会  
震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 19.第3回震災展実行委員会
- 20.原風景聞き取り調査  
第9回たんけん隊実行委員会  
Libella発送
- 25.川崎公害訴訟和解調印式(参加:森脇)
- 26.倉敷公害訴訟和解調印式  
(参加:森脇・傘木・鎗山・三宅)
- 27.仕事納め

1997年

1月

- 06.大阪市へあいさつ
- 07.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 09.主任会議
- 10.第4回「西淀川の震災展」実行委員会
- 12.西淀川船上水質調査
- 13.事務局会議  
第11回運営検討会
- 14.NIRA助成研究第6回公開研究会
- 16.第5回「西淀川の震災展」実行委員会
- 17~19.西淀川の震災展開催(於エルモ西淀川)
- 18.リハビリ第1回専門委員会
- 21.原風景聞き取り調査
- 22.事務局会議  
22~2/8.特別展「西淀川の震災展」開催  
(於西淀川地域資料室)
- 23.患者会ヒアリング調査  
大阪NPOセンター交流会(参加:鎗山)  
第10回たんけん隊実行委員会
- 24.第2回地域再生講座  
第2回パートナーシップ協議会(参加:傘木)
- 25.第25回公害環境デー(報告:三宅)
- 26.西須磨まちづくり協議会学習会(講師:傘木)
- 27.第6回公害博物館構想委員会
- 28.事務局会議  
原風景聞き取り調査
- 30.原風景聞き取り調査  
第6回「西淀川の震災展」実行委員会

2月

- 02.震災復興まちづくりと道路研究会(講師:傘木)
- 03.事務局会議
- 05.倉敷公害患者会来所
- 06.環境基本計画公聴会(意見発表:傘木)
- 08.第4回まちづくりたんけん隊
- 10.事務局会議  
原風景聞き取り調査
- 12.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 13.子どもと環境研究会2月例会

- 14.原風景聞き取り調査  
倉敷市、岡山県と懇談
- 17.事務局会議  
震災展記録集プロジェクト会議
- 19.第12回運営検討会
- 20.原風景聞き取り調査
- 21.第3回地域再生講座  
Libella発送
- 23.西須磨まちづくり協議会学習会(講師:傘木)
- 24.事務局会議  
26~3/19.企画展「西淀川の土地の変化」
- 27.企画展関連行事・語る会「私の原風景」  
第7回公害博物館構想委員会  
ヒアリング調査班打ち合わせ
- 28.第1回道路提言研究会  
第11回たんけん隊実行委員会

3月

- 01.リハビリ第2回専門委員会
- 02.第4回全国地方自治研究会(報告:鎗山)  
震災復興・水とみどりの復権シンポジウム  
(報告:三宅)
- 03.事務局会議  
主任会議
- 04.台湾環境行政関係者の視察受け入れ
- 05.第7回「西淀川の震災展」実行委員会
- 06.倉敷公害裁判和解祝賀会  
(参加:傘木・鎗山・三宅)  
子どもと環境研究会3月例会
- 07.水保、全羅南道NGOとの懇談
- 10.事務局会議
- 11.震災復興NGO運営委員会(委員:傘木)
- 12.主任会議
- 13.大阪市立阿倍野青年センター「環境保護実践講座」(講師:傘木)
- 14.第4回地域再生講座
- 16.大阪歴史学会との共催による西淀川見学校討会
- 17.事務局会議
- 19.中央環境審議会(参加:傘木)
- 20.Libella発送
- 21.西淀川震災展記録発行委員会事務局会議
- 22~23.第22回瀬戸内シンポジウム(報告:鎗山)
- 23.西淀川こどもエコクラブ・西淀まちと自然の会  
と「矢倉海岸観察会」を共催  
西須磨まちづくり協議会学習会(講師:傘木)
- 24.事務局会議  
第1回西淀川震災展記録発行委員会
- 26.事務局会議  
第13回運営検討会
- 29.気候フォーラムNGOシンポジウム(参加:上田)
- 30.第2回通常理事会
- 31.事務局会議

4月

- 01.賛助会員制度の発足
- 09.事務局会議  
第2回西淀川震災展記録発行委員会  
第8回公害博物館構想委員会
- 11.第5回地域再生講座  
環境庁環境保健部企画課課長来所
- 11~13.韓国・麗川工業団地視察(参加:鎗山)
- 13.気候フォーラム運営委員会(参加:上田)
- 16.子どもと環境研究会世話人会
- 17.事務局会議  
上町公園について大阪市と懇談
- 19.理系学部出身の働く女性と院生・学生のつどい  
(参加:鎗山・三宅)
- 20.第5回たんけん隊  
学生・若手研究者交流会
- 21.事務局会議
- 22.Libella発送
- 24.第1回住工植樹研究会  
第3回西淀川震災展記録発行委員会
- 25.西淀川公判(参加:上田・片岡)
- 28.事務局会議  
子どもと環境研究会4月例会
- 29.第1回タンポポ分布調査
- 30.第14回運営検討会

5月

- 04・17.タンポポ分布調査
- 05・06.西淀川患者会転地療養  
(参加:大野・達脇・平山・三宅)
- 07.事務局会議
- 08.第2回道路提言研究会
- 09.第4回西淀川震災展記録発行委員会
- 10.第6回地域再生講座
- 14.事務局会議
- 15.環境安全第3回専門委員会
- 16.1日事務局会議
- 17.気候フォーラム運営委員会(参加:上田)
- 18.十三干潟の野鳥観察とシジミ採り
- 19.事務局会議  
羽曳野病院でのリハビリパイロット事業開始  
子どもと環境研究会世話人会
- 20.Libella発送
- 22.Libella編集会議  
第12回たんけん隊実行委員会  
監査  
井上弁護士・森脇対談(第1回公害経験記録のた  
めの座談会)  
パルコープ総代会(参加:片岡)
- 23.第5回西淀川震災展記録発行委員会  
ビデオ「柳川堀割物語」を見て語る会
- 26.事務局会議  
第6回西淀川震災展記録発行委員会

- 27. 桃山学院大学芝村研究室視察受け入れ
- 28. 子どもと環境研究会 5月例会
- 29. 第1回評議員会
- 30. 上町公園について大阪市と懇談

6月

- 01. 事務局会議  
主任会議  
市民研究員助成応募開始
- 02・03. 全国公害被害者総行動ア  
(参加: 上田・鎗山・達脇・片岡)
- 05. 第2回住工植樹研究会
- 06. Libella編集会議  
西淀川の震災展パンフレット出版記念会  
第17回日本環境会議神戸大会実行委員会  
(委員: 傘木)
- 09. 事務局会議  
第13回たんけん隊実行委員会
- 12. 大阪NPOセンター交流会(参加: 鎗山)
- 13. 第17回日本環境会議神戸大会実行委員会  
(委員: 傘木)
- 14. シンポジウム「原風景から探る西淀川のまちづくり」
- 16. 事務局会議
- 17. アルバイト面接
- 19. 主任会議  
第9回公害博物館構想委員会  
第3回道路提言研究会
- 20. Libella編集会議
- 21. 日本園芸療法研究会シンポ「花と草との対話」  
(参加: 三宅)
- 23. 第3回通常理事会
- 24. 主任会議  
Libella発送
- 26. トヨタ財団助成研究第3回研究会  
子どもと環境研究会6月例会
- 27. 事務局会議
- 30. 第15回運営検討会

7月

- 01~8/29. 企画展「西淀川のいきもの展」
- 01. アルバック学習会(講師: 傘木)
- 02. 第17回日本環境会議神戸大会実行委員会  
(委員: 傘木)
- 04. 主任会議  
Libella編集会議  
厚生科学研究打ち合わせ
- 05. 環境を保全しコンビナートと共生する水鳥のまちづくりシンポジウム  
(パネラー: 鎗山)
- 06. トヨタ財団助成研究第4回研究会
- 08. 事務局会議

- 09. 西淀川子どもエコクラブサポーター学習会
- 10. 合同製鉄高炉調査
- 11. 主任会議  
環境庁大気保全局長来所
- 12. 大阪から公害をなくす会主催ダイオキシン学習会(参加: 森脇)
- 13. 気候フォーラム運営委員会(参加: 上田)
- 14. 事務局会議
- 15・16. NO2簡易測定
- 17. 子どもと環境研究会世話人会
- 18. 主任会議
- 22. 西淀川公判・ひまわり行動  
(参加: 大野・鎗山・片岡・上田)
- 23. 事務局会議  
第4回道路提言研究会
- 24. 子どもと環境研究会7月例会
- 25. 主任会議  
交通マネージメントワークショップ(参加: 鎗山)
- 28. 事務局会議  
大阪都市圏の総合的研究会の視察受け入れ
- 29. 第17回日本環境会議神戸大会実行委員会  
(委員: 傘木)
- 31. 第14回たんけん隊実行委員会

8月

- 01. 主任会議  
Libella編集会議  
島川・森脇対談(第2回公害経験記録のための座談会)
- 02. おおぞらの会全国集会(参加: 傘木)
- 02~03. 第26回神岡鉱山立ち入り調査(参加: 片岡)
- 02・09. クマゼミ分布調査
- 04. 事務局会議
- 05. 環境安全第4回専門委員会  
リハビリ第3回専門委員会
- 06. トヨタ財団助成研究第4回研究会
- 07. 中長期計画・財政計画策定委員会合同会議
- 08. 事務局会議  
環境庁企画調整局計画課視察受け入れ
- 09. トヨタ財団助成研究第5回研究会  
第10回公害博物館構想委員会
- 10. 厚生科学研究打ち合わせ
- 11. 設立記念日  
尼崎南部地域見学
- 12. トヨタ財団助成研究マップづくり
- 18. 事務局会議  
Libella編集会議  
財政計画策定委員会
- 19. 子どもと環境研究会世話人会  
西淀川の自然を語る会
- 21. 第10回公害博物館構想委員会
- 22. Libella発送
- 23. トヨタ財団助成研究マップづくり

- 24. 第6回まちづくりたんけん隊  
社会教育研究全国集会神戸大会(報告: 片岡)
- 26. 子どもと環境研究会9月例会
- 27. 第5回道路提言研究会
- 28. 第16回運営検討会(市民研究員助成対象者決定)  
中長期計画策定委員会
- 30. 西淀まちと自然の会と「鳴く虫の観察会」を共催

9月

- 01. 環境庁委託調査研究「住工混在地域における良好な大気生活環境の形成に関する調査研究」  
第1回専門委員会
- 02. 主任会議
- 03. Libella編集会議
- 05. 事務局会議  
Libella編集会議
- 07. 気候フォーラム運営委員会(参加: 上田)
- 08. 事務局会議
- 09. トヨタ財団助成研究第5回研究会  
第10回公害博物館構想委員会
- 16. 事務局会議
- 18. 財政計画策定委員会
- 19. 主任会議  
患者会健康回復委員会(委員: 大野)  
保健所との懇談会(参加: 大野)
- 22. 事務局会議  
船上水質調査  
トヨタ財団助成研究第6回研究会  
Libella発送
- 23. 全国公害裁判弁護団連絡会議(報告: 鎗山)
- 24. 第17回日本環境会議神戸大会実行委員会  
(委員: 傘木)
- 25. 地球環境市民大学国際協力講座第1回  
環境庁企画調整局企画課長来所
- 26. 事務局会議  
子どもと環境研究会9月例会  
第17回日本環境会議神戸大会実行委員会  
(委員: 傘木)
- 28. リバティ大阪野外講座受け入れ(講師: 森脇)
- 30. 事務局会議  
主任会議

略称索引

略 称	正 式 名 称
リハビリ専門委員会	環境庁委託調査研究「環境保全活動を通じた公害病患者等のリハビリテーションの可能性に関する調査研究」専門委員会 <1997年~> 「園芸療法等を活用した環境保健事業に関する調査研究」専門委員会
工業団地植樹専門委員会	(特)公害健康被害補償予防協会委託研究「大都市における工業団地と地域住民のパートナーシップによる植樹事業手法に関する調査研究」専門委員会
公害博物館構想委員会	「公害博物館(仮称)」基本構想委員会
環境安全専門委員会	環境庁委託調査研究「安全な地域環境の再生に関する調査研究」専門委員会
住工植樹専門委員会	(特)公害健康被害補償予防協会委託研究「住工混在地域における各主体のパートナーシップによる植樹手法に関する調査」研究会
厚生科学研究	保健医療福祉地域総合調査研究事業「地域における環境保全と防災に資する医療施設敷地利用の推進方策に関する研究」
震災復興NGO運営委員会	震災復興・関西環境NGOネットワーク運営委員会
職員読書会	職員読書会「まちに自然をつくる」を読む
NIRA助成研究公開研究会	NIRA助成研究事業「パートナーシップによる公害地域再生」公開研究会
トヨタ財団助成研究研究会	トヨタ財団助成研究「公害地域における市民参加型の自然環境復元手法に関する調査研究」研究会
原風景聞き取り調査	西淀川原風景・原体験の聞き取り調査

●財団の活動に関する新聞記事 (1996年1月～1997年9月)

- |                            |   |               |   |
|----------------------------|---|---------------|---|
| 1996. 1.25 読売              | 公害和解金で環境保護財団 西淀川訴訟原告団の再生活動 6月メド法人申請                 | 1996.10.12 読売 | 社説 公害訴訟から地域の再生へ                                   |
| 1996. 1.25 朝日              | 西淀川訴訟の原告ら和解金でまち再生来月に準備会                             | 1996.11. 6 読売 | あおぞら財団が8日に設立総会開く、大阪・西淀川公害訴訟の原告ら                   |
| 1996. 2. 8 毎日              | 公害問題で連携公益法人設立へ 西淀川訴訟の原告ら                            | 1996.11. 7 朝日 | 西淀川矢倉海岸 自然戻り野鳥100種も市と住民整備のあり方探る                   |
| 1996. 2. 8 赤旗              | 西淀川公害被害者ら「再生センター」設立へ 健全な環境めざし患者自身が運動                | 1996.11. 8 朝日 | 「あおぞら財団」設立の集いを開催                                  |
| 1996. 2. 8 日経              | 西淀川訴訟の原告団、公害研究機関設立へ                                 | 1996.12.15 中国 | 倉敷の公害患者ら注目 大阪西淀川訴訟原告らが財団 地域再生の方策追求                |
| 1996. 2.14 民衆日報 (中華民国)     | 台湾公害准許標準高出日本数倍                                      | 1997. 1.10 読売 | 「西淀川の震災展」展示 17日から当時の写真や記事など 今後の課題も住民から提言          |
| 1996. 2.14 中国時報 (中華民国)     | 致命汚染源不是掩埋場  | 1997. 1.13 産経 | 17日から西淀川で震災展 2年の歩み検証し街づくり考えよう                     |
| 1996. 3.17 The Japan Times | Pollution plaintiffs seeks to clean up their area   | 1997. 1.14 朝日 | 大阪市内で最大被害西淀川区で震災展 写真や作文数千点 復興への課題を検証              |
| 1996. 3.22 読売              | 公害地域再生シンポジウム24日に大阪科学技術センターで開く                       | 1997. 1.16 朝日 | 窓論説委員室から 再生への和解                                   |
| 1996. 3.24 朝日              | 公害再生めざし、きょう大阪西区でシンポ                                 | 1997. 1.31 朝日 | 自然が戻った西淀川の矢倉海岸 伐採して生態調査緑が育つ環境提言へ 市民団体 大阪市「意見きき検討」 |
| 1996. 3.25 朝日              | 公害地域再生へ、シンポジウム開催 大阪で270人参加                          | 1997. 2.24 日経 | NPOに生きる 公害地域を再生 傘木宏夫                              |
| 1996. 4.21 朝日              | 地方分権の足音私たちが主役 街再生—公害患者ら将来見据え具体策提案                   | 1997. 2.26 朝日 | 「西淀川の移ろい」展始まる あす、ふるさと体験を語る会                       |
| 1996. 5.29 朝日              | まち再生は探検から 西淀川訴訟の原告ら公園や空き地を調査                        | 1997. 3. 2 赤旗 | 「西淀川の土地の変化～私たちの原風景」展 あおぞら財団19日まで開催                |
| 1996. 5.31 毎日              | 資源マップ作製へ あす公園生物調査 西淀川の財団法人                          | 1997. 3. 5 読売 | 泉一田園、公害…西淀川の原風景                                   |
| 1996. 6. 1 読売              | 西淀川公害訴訟原告ら池づくり よみがえれトンボ舞う街「センター」自主事業第1弾             | 1997. 3.14 毎日 | 大阪歴史学会、16日に見学会「西淀川の変貌」焦点 公害訴訟弁護士講演も               |
| 1996. 8.22 朝日              | 西淀川再生へあすから講座  | 1997. 4. 8 朝日 | インタビュー 鎗山善理子さん町づくりを研究するあおぞら財団研究員 活動への共鳴に強い手ごたえ    |
| 1996. 9.12 産経              | 公害のない街づくり「あおぞら財団」発足 西淀川公害訴訟の和解金拠出                   | 1997. 5.10 朝日 | カンサイタンポポ西淀川で自生広げる 公害に苦しんだ街 自然は力強く                 |
| 1996. 9.12 朝日              | 青空めざし財団が発足 西淀川公害訴訟原告ら                               | 1997. 5.31 朝日 | 公害の町再生へ応援 西淀川訴訟の「あおぞら財団」が助成金                      |
| 1996. 9.12 読売              | 公害地域再生へ財団 西淀川公害訴訟和解金で発足                             | 1997. 6.13 朝日 | 西淀川地域の再生探る あおぞら財団あすシンポ 公害被害者主体に「原風景」聞き取りも         |
| 1996. 9.12 日経              | 和解金で環境保護財団 西淀川公害訴訟の原告 環境庁が法人化を許可 緑づくり事業など推進         | 1997. 6.14 読売 | 西淀川再生シンポ “原風景”生かす街づくりテーマ 公害訴訟原告団の財団法人きょう開催        |
| 1996. 9.12 毎日              | 和解金で「あおぞら財団」環境庁が設立を許可 西淀川公害訴訟公害資料館建設を準備/昆虫集まる水辺取り戻す |               |   |
| 1996. 9.30 朝日              | 森脇君雄さん「あおぞら財団」理事長                                   |               |   |

●財団の活動に関するテレビ報道 (1996年3月～1997年9月)

- |                  |   |  |
|------------------|---|--|
| 1996. 3.24 NHK   | 「ローカルニュース」：西淀川公害訴訟原告団環境対策づくりでシンポ                | 震災展                                    |
| 1996. 3.25 朝日放送  | 「おはようコールABC」：きょうの注目記事—パートナーシップ (協働) コメンテーター小山仁示 | 1997. 3.14 大阪セントラル・ケーブル・ネットワーク         |
| 1996. 9.11 関西テレビ | 「アタック600」：まちづくりたんけん隊                            | 「ケーブル・ニュース」：目で見ると西淀川の移り変わり             |
| 1996.10.29 NHK教育 | 「ジャパン&ワールド」：公害を防ぐ                               | 1997. 6.14 NHK                         |
| 1997. 1.17 テレビ大阪 | 「ニュースほっと5」：西淀川の                                 | 「ローカルニュース」：シンポジウム原風景から探る西淀川のまちづくり      |
|                  |   | 1997. 6.14 関西テレビ                       |
|                  |   | 「アタックザヒューマン」：シンポジウム原風景から探る西淀川のまちづくり    |
|                  |   | 1997. 9. 3 テレビ大阪                       |
|                  |   | 「ニュースほっと5」：秋みつけたin西淀川虫のハーモニー (鳴く虫の観察会) |

●外部による財団紹介資料 (1994年9月～1997年9月)

- ・塩崎賢明「公害防止・地域再生と都市計画」(『法律時報』66巻10号1994年9月)
- ・小山仁示『戦争 差別 公害』(解法出版社、1995年11月)
- ・高田昇「現場からのレポート 公害地域再生の拠点づくり始まる」(『環境と公害』第26巻第1号1996年7月)
- ・宮本憲一『環境と自治 私の戦後ノート』(岩波書店、1996年8月)
- ・辻川 敦「今を生きる歴史学—現代史研究に寄せて」(『歴史と神戸』、1996年12月号)
- ・三村浩史『地域共生の都市計画』(学芸出版社、1997年1月)
- ・塩崎賢明「公害地域再生と復興のまちづくり」(淡路剛久・寺西俊一編『公害環境法理論の新たな展開』日本評論社、1997年4月)
- ・白石健二「西淀川の震災展、西淀川地域資料室を見学して」(『地方史研究』第47巻第3号、1997年6月)
- ・「特集西淀川を考える—大都市近郊地域の歴史の変貌—特集にあたって(尾崎耕司)、村から町へ—近世の西淀川地域—(渡邊忠司)、明治期における淀川改修工事と西淀川地域(服部敬)、阪神工業地帯の形成と西淀川の変貌(小田康徳)、西淀川公害患者と家族の会からの訴え(塚口アキエ、北村ヨシエ)、西淀川公害裁判と歴史のかかわりあい(津留崎直美)(『ヒストリア』第156号、1997年9月)
- ・寺田匡宏「復興と歴史意識—阪神大震災記録保存運動の現在—」(『歴史学研究』第701号、1997年9月)
- ・村上大輔「新大阪市立博物館・考古資料センターを考えるシンポジウム参加記」(『歴史科学』No.150、1997年9月)

●理事長の対外活動一覧 (1996年9月～1997年9月)

- ・日本の大気汚染経験検討委員会編『日本の大気汚染経験—持続可能な開発への挑戦—』(公害健康被害補償予防協会編)日本の大気汚染経験検討委員会委員
- ・地球環境パートナーシッププラザ運営委員
- ・四日市地球環境シンポジウムパネラー (1996年11月9日)
- ・リパティおおさか大阪人権博物館野外講座「公害と再生の街・西淀川を歩く」講師 (1997年9月28日)



## ●職員の対外活動一覧（1996年2月～1997年9月）

### 傘木宏夫

#### <論文等>

- ・「奪われた原風景を求めて一街づくり再生へのパートナーシップ」((社)大阪自治体問題研究所『おおさかの住民と自治』Vol. 215、1996年10月)
- ・「震災を経て公害の街へ神戸開発主義の危険な選択」(兵庫県震災復興研究センター『震災研究センター』No.22、1997年2月)
- ・「パートナーシップによる地域再生の取り組み」((株)関西総合研究所『まちづくりKIDS』Vol.12、1997年5月)
- ・「公害地域再生への挑戦」(自治体問題研究所『住民と自治』Vol. 411、1997年5月)
- <講演・報告等>
- ・「これからの環境保健ー住民参加型の地域づくり活動」(環境庁「21世紀における環境保健のあり方に関する懇談会」、1996年2月20日)
- ・「みんなですすめる健康づくり・街づくり」(淀協友の会千北支部総会、1996年4月13日)
- ・「震災とコミュニティ計画」(災害法理論研究会、1996年4月4日)
- ・「地球環境問題と広がるアジアでの公害、NGOの課題」(アースディ兵庫の集い、1996年4月22日)
- ・「神鋼石炭火力発電所問題と市民運動」(神鋼火力発電所問題シンポジウム、1996年7月13日)
- ・「尼崎南部の再生とローカルアジェンダ」(尼崎ローカルアジェンダに関する学習会、1996年7月17日)
- ・「尼崎臨海西部開発に関する環境影響評価について」(尼崎都市・自治体問題研究所、1996年10月25日)
- ・「六甲アイランド南建設事業に関する環境影響評価について」(瀬戸内海を守る連絡会学習会、1996年12月4日)
- ・「住環境と調和する道路づくり」(西宮北口・道路問題学習会、1996年12月8日)
- ・「西須磨まちづくり懇談会 まちづくり連続講座」(第1回道路公害とたたかう、1997年1月26日、第2回住環境と調和する道路づくり、1997年2月23日、第3回山・川・海をつなぐ緑の生態系と共存できるまちづくり、1997年3月23日)
- ・「西淀川公害訴訟とこれからの地域づくり活動」(阿倍野青年センター『環境保護実践講座』、1997年3月13、20日)
- ・「地域の環境と住民の健康」(東神戸医療互助組合東灘東支部総会、1997年7月1日)
- ・「公害地域再生へ私の個人史」(アルパック地域計画・建築研究所大阪事務所内ゼミ、1997年7月12日)

- ・「公害地域再生に向けた取り組み」(桃山学院大学「大阪都市圏の総合的研究会」、1997年7月28日)

### 片岡法子

#### <論文等>

- ・「大阪市における生涯教育時代の博物館のあり方について」(『関西大学博物館紀要』第3号、1997年3月)
- ・「『西淀川の震災展』を実施して」(『震災研究センター』、No.23、1997年3月20日)
- <報告>
- ・「公害地域の再生と住民の学習ー大阪市西淀川区での取り組みからー」(第37回社会教育研究全国集会神戸大会分科会「環境保護・環境創造と住民の学習」、1997年8月24日)

### 鎗山善理子

#### <論文等>

- ・「公害訴訟から地域再生への出発」(『民医連医療』No. 290、1996年9月)
- ・「公害訴訟から地域再生へーあおぞら財団の取り組み」(『大阪NPO通信』Vol.3、1997年4月号)
- <報告>
- ・「西淀川における地域再生の取り組み」(第4回全国自治研修会第3分科会「環境保全型自治体づくりをめざして、1997年3月2日)
- ・「公害と闘い地域の再生へー西淀川における地域再生の取り組み」(第22回瀬戸内シンポジウム21世紀の瀬戸内像をさぐるー瀬戸内法の25年ー、1997年3月23日)
- ・「あおぞら財団の取り組み」(環境を保全しコンビナートと共生する水島のまちづくりシンポジウム、1997年7月5日)

### 三宅雅美

#### <報告>

- ・「あおぞら財団まちづくりたんけん隊」(第25回公害環境デー、1997年1月25日)
- ・「臨海地域における緑地と水辺の再生」(震災復興・水とみどりの復権シンポジウム、1997年3月2日)

### 共同研究

#### <報告>

- 北元敏夫(同志社大学講師)、鎗山善理子、三宅雅美、片岡法子
- ・「市街地の緑地環境を胸高断面積合計・面積百分率で診断するー大阪市西淀川区内の毎木調査からー」(日本生態学会近畿地区会第3回地区例会、1996年12月)

## 5. 事務局から「ひとこと」

事務局の職員紹介です。いろいろな人がいます。

96~97年の教えてあげたい  
こんなコト・モノ・ヒト



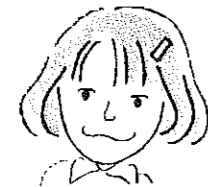
徹夜の審議のあと丸1日延長されたCOP3京都会議最終日でのこと。議長の大木浩環境庁長官は、"Very important Job"で帰京おと突然退任のあいさつをした。これには、NGOメンバーも外国人記者もびっくり仰天。「国際会議のホスト国議長より大事な仕事とはなに？」と首をかきずけり。怒ったり。部下からも「国会かきなんだが知らんが、クビを覚悟で京都に残ってほしかった」とため息をついた。そんな声が届いたのが長官は、Jス京都駅からUターン、再開後の議長席に就いた。眠気もフ、飛ぶこのドタバタ劇は、日本政府の国際感覚のなさを露呈してしまった。長官、あなたの部下も私たちも、あなたの語学力より国際感覚に期待しているのです。  
上田敏幸 (うえだ・としゆき)



いい息していますか！  
爽々している時、人は下腹から強く息を吐き出します。身体はじんわりリラックスします。怒っている時、水浴に息を吸いこんで吐きません。身体は緊張してこわばってしまいます。息は心と身体をコントロールしているといえます。何かとストレスの多い時代、イライラしている時、疲れた時、頭にきたときetc. 下腹からゆったりと息を吐いてみましょう。20回もやるうちに、心も身体もすっかり落ち着いてくるから不思議です。騙されたと思って一度試してみませんか。  
大野みさ子 (おおの・みさこ)



本当はあまり教えたくないのですが...  
<http://www.aozora.or.jp/rag/>  
を開くと、傘木宏夫の別の姿を知ることができます (写真左から2人目が僕です)。  
傘木宏夫 (かさぎ・ひろお)



13での下宿生活を始めて7年。13といえは繁華街の仮3が強いですが、ひと通り隔てる人情味あるおみやげがたりする。私の行きつけの喫茶店は、「つぼみ通り」と名付けられた13東本通商店街のサロンのおなじみ。13でも12か月1度は商店街の人たちが集まり、「つぼみ談義」を繰り広げるとか。もうあじ春。つぼみの鳴き声が待ち遠しい。今日のごろです。  
片岡法子 (かたおか・のりこ)



西淀川に通うようになって1年2ヶ月が過ぎました。ここに来て興味深かったことのひとつに、街で見かける人々に高齢者が多いということでした。私自身親の高齢化と介護問題が急に来たような1年でしたし、自分のこととしても遠い先の話ではなく、足元の問題として実感する歳月でした。そこで、どうしたら豊かに年を取れるか、元力充実した老後が過ごせるかなど、同世代と真剣に語りあった1年間でありました。  
達脇明子 (たつわき・あきこ)



私は6年前に初めてこの道と出会いました。それはウパサナーの瞑想方法。心に真のやすらぎをもたらす幸せを究めた生活を送る為の簡単な実践法です。ウパサナーはインドにおける最古の瞑想法の一つで、二千五百年前にゴータマ・ブツダにより再発見されました。この瞑想法はブツダの生涯の四十五年間修行し、また教え続けた技の真髄です。興味をお持ちの方は是非までお問い合わせ下さい。  
平山ユミ子 (ひらやま・ゆみこ)



私は今も1年半ほど前に初めて教育テレビの「イタリア語会話」を見たときの衝撃を忘れることができません。それは何気なくテレビのスイッチを付けたときのことで。ふと目にとまったのは、カメラに向かって投げキッスをする陽気なイタリア男でした。ジローラモという名の彼は派手なジェスチャーで最後まで私をひきつけました。もう1人のイタリア人講師であるダリオ氏のパフォーマンスも笑わせました。かつてこれほど愉快な語学番組があったらうが、NHKもいろいろ工夫してるんだな、と思いつつ、今も見続けています。イタリア語に興味があっても楽しめる番三宅雅美 (みやけ・まさみ) 組ではないでしょうか。



"しほりビール"  
なんぞ高島屋の向いの映画館の右隣にある"ミンハン"というビアホール(他のミンハンではタメ子と云う)。ほしほの方か看板を目にしたことかあると思うが、もし行くことがあれば、メニューにはないが、"しほり!!"と大声で注文してあげよう。と、さうやういって、おもしろい...。さうしてビール好きで飲む量もほとんどお酒を飲まない反人、思わず"おいしい!"とおのりとしほりのビール。若鶏のから揚げと一緒に、今更幸せな私でした。  
安川圭子 (やすかわ・けいこ)



私の朝食はサルのえさ？  
ケロッグの「オールブラン」をご存じでしょうか。私の好物です。これにバナナ1本(かちうサイズに輪切り)とレーズンを約10粒。それにハチミツを少々、最後に牛乳をぶっかけて食べます。朝からサルになったような気分が味わえます。ウッキー!!  
食物繊維がいっぱい  
これは毎朝食べたがるい  
朝からサルになったような気分が味わえます。ウッキー!!  
鎗山善理子 (やりやま・よりこ)

## 編集後記

財団設立準備会として1996年2月に事務所開きをし、活動を開始してからおよそ丸2年が経とうとしています。ようやく、初めての年次報告書をまとめることができました（年報と呼べるものかどうか疑問ですが…）。

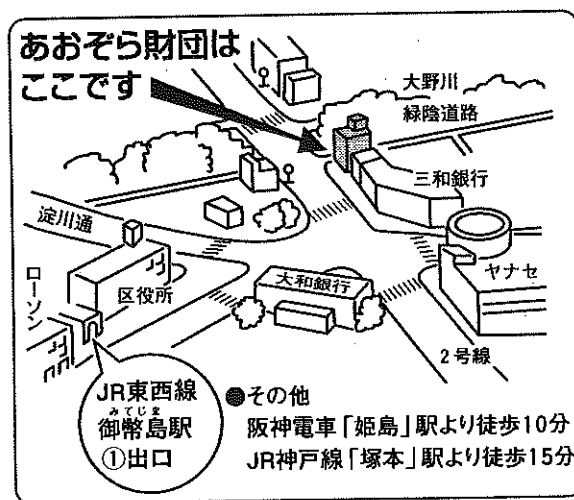
編集作業では、あらためて「いろんなことやってんなあ」「しかし、まあ、いろんな人が協力してくれてるなあ」と感じたいです。みなさん、本当にありがとうございます。

少々やかましく、いつもドタバタとあわただしい職場ですが、これもパワーがありあまってる証拠(?)と前向きに考え、今後も職員一同がんばっていきたいと思います。応援よろしくお願いします。

さいごに、あゆみコーポレーションの方々、いつもありがとうございます。

(Y)

1998年1月



あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や生命を奪われた患者たちが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。